



人とともに 地域とともに
 国立大学法人
島根大学

国立大学法人 島根大学概要 2009-2010

編集・発行 / 島根大学広報・広聴委員会(総務部総務課)

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060

TEL.0852-32-6011

<http://www.shimane-u.ac.jp/>

E-mail:webinfo@jn.shimane-u.ac.jp



学章

総合大学として飛躍し、発展する島根大学を日本海の青色のUで、
 知性を愛し感性を育む学問の探究を茜色の扉と本で象徴しています。

国立大学法人 島根大学概要 2009-2010



2009-2010

大学概要

PROFILE OF SHIMANE UNIVERSITY



学生満足度を日本一に

島根大学は、大学憲章に「知と文化の拠点として培った伝統と精神を重んじ、『地域に根ざし、地域社会から世界に発信する個性輝く大学』を目指すとともに、学生・教職員の協同のもと、学生が育ち、学生とともに育つ大学づくりを推進する。」と謳っています。この理念をより端的に表す言葉として、「人とともに 地域とともに 島根大学」を定め、全構成員がこの精神を等しく共有してその実現に向けて取り組んでいます。

島根大学を「学生満足度日本一の大学」、「地方国立大学のトップ校」、とりわけ学生教育、学生支援、地域貢献のモデル国立大学にするため、大学憲章を具体化するためのアクションプランの達成を中期目標計画に明確に位置づけ、教職員一体となってこれを着実に実行しているところです。

島根大学は、学生確保・教育内容・進路支援を相乗的に高める施策に重点を置き、学生満足度を一層向上させる取り組みを強化しています。「学生教育・学生支援を第一義的に考える大学」として、本学に入学した学生諸君の期待に応えます。

島根大学長 山本 廣基



CONTENTS

学長メッセージ	1	医学部・医学系研究科	19
島根大学憲章	3	医学部附属病院	21
豊かな人間性と高度な専門性を身につけた、自ら主体的に学ぶ人材の養成	5	総合理工学部・総合理工学研究科	23
特色ある地域課題に立脚した国際的水準の研究推進	7	生物資源科学部・生物資源科学研究科	25
地域問題の解決に向けた社会貢献活動の推進	9	法務研究科	27
アジアをはじめとする諸外国との交流の推進	11	附属図書館	28
学問の自由と人権の尊重、社会の信頼に応える大学運営	13	学内共同教育研究施設等	29
法文学部・人文社会科学研究科	15	キャンバスマップ	31
教育学部・教育学研究科	17	データブック	1～32

島根大学憲章

島根大学は、学術の中心として深く真理を探究し、専門の学芸を教授研究するとともに、教育・研究・医療及び社会貢献を通じて、自然と共生する豊かな社会の発展に努める。とりわけ、世界的視野を持って、平和な国際社会の発展と社会進歩のために奉仕する人材を養成することを使命とする。この使命を実現するために、島根大学は、知と文化の拠点として培った伝統と精神を重んじ、「地域に根ざし、地域社会から世界に発信する個性輝く大学」を目指すとともに、学生・教職員の協同のもと、学生が育ち、学生とともに育つ大学づくりを推進する。

1

豊かな人間性と高度な専門性を身につけた、自ら主体的に学ぶ人材の養成

島根大学は、深い教養に裏づけられた高い公共性・倫理性の涵養を教育の基礎に置き、現代社会を担う高度な専門性を身につけた人材の養成を行う。島根大学は、学生が、山陰の豊かな自然、歴史と文化の中で、学修や関連する諸活動を通して積極的に社会に関わりながら、自ら主体的に学び、自律的人格として自己研鑽に努めるための環境を提供する。

2

特色ある地域課題に立脚した国際的水準の研究推進

島根大学は、社会の多面的要請に応えうる多様な分野の研究を推進するとともに、分野間の融合による特色ある研究を強化し、国際的に通用する創造性豊かな研究拠点を構築する。島根大学は、社会の要請に応え、地域課題に立脚した特色ある研究を推進する。

3

地域問題の解決に向けた社会貢献活動の推進

島根大学は、教育・学修、研究、医療を通して学術研究の成果を広く社会に還元する。島根大学は、市民と連携・協力して、地域社会に生起する諸課題の解決に努め、豊かな社会の発展に寄与する。

4

アジアをはじめとする諸外国との交流の推進

島根大学は、地域における国際的な拠点大学として、アジアをはじめとする国際社会に広く目を向け、価値ある情報発信と学術・文化・人材の交流を推進することによって、国際社会の平和と発展に貢献する。

5

学問の自由と人権の尊重、社会の信頼に応える大学運営

島根大学は、真理探究の精神を尊び、学問の自由と人権を尊重するとともに、環境との調和を図り、学問の府にふさわしい基盤を整える。島根大学は、学内外の意見を十分に反映させつつ透明性の高い、機動的な運営を行う。



University Identity 1

豊かな人間性と高度な専門性を身につけた、自ら主体的に学ぶ人材の養成

島根大学の知的及び人的資源を活用して、多様化し変動し、さらにグローバル化する現代社会の要請に応え得る豊かな教養と高い倫理観を備え、かつ、科学的探求心に富む有為な人材を育成します。

このため、入口から出口までの優れた教育プログラムを提供し、成果を着実に積み上げることにより、地方における総合大学としての存在意義と社会的評価の確立を目指します。

このような教育環境をつくるため、学生の立場に立った大学づくりを目指します。

教養教育

人と世界への理解を深める

大学の教養教育は、総合的な判断力と豊かな人間性を身につけた社会人の養成、専門教育への橋渡しを目的に、4年ないし6年一貫教育の中で行われ、幅広く充実した授業を提供しています。これからの大学教育には、学生や教育内容の変化に対応して、教養教育の重視がますます望まれています。生涯学習や大学教育の基盤となる「基礎教育科目」、全人的教育として知性・感性・徳性を養う「共通教養科目」、専門教育へつながる「専門基礎教育科目」を通してこの課題に応えます。学内の全教員が、全学統一の教育方針に従って担当することにより、教養教育がいっそう充実することを目指しています。



今後ますます重要視される教養教育

学部教育

基礎から専門へ深化する一貫教育

現代社会は、さまざまな分野で起こる問題を理性的に、創造的に解決する力を求めています。その力を支えるのは、深い専門知識、広い分野、総合的な判断力です。島根大学は、教養教育から学部教育へ、基礎から専門へと体系的に深化するカリキュラムに沿って一貫した教育を行っていきます。

個性豊かに専門性を追求し、現代社会の多面的ニーズに応えます。

- 法文学部 人を知り、人を創る
- 教育学部 体験が育む、プロの教育実践力
- 医学部 人類の福祉と地域医療に貢献する医療人の育成
- 総合理工学部 科学・技術が創る人間の未来
- 生物資源科学部 “いのち”あふれる地球を育む

特色ある全学教育プログラム

大学で学ぶ力を身につける - 初年次教育プログラム・補完教育プログラム

本学では平成21年度より全学で初年次教育プログラムを展開しています。初年次教育とは、大学1年生を対象に、レポートを書く、口頭発表する等大学で学ぶ上で必要な技術を習得し、これまでの受身的な学習観から主体的に学ぶ姿勢・意欲を身につけることを目的とした高校と大学を接続する教育プログラムです。プログラム内で同級生との仲間づくりや教員との密なコミュニケーションを促進し、大学における「居場所づくり」を行い、専門教育へのやる気を喚起することで、新しい環境での円滑なスタートを応援します。本学ではまた基礎学力に不安がある学生には、英語、数学、物理、化学の教科に関して補完教育プログラムがあります。島大生らしく学ぶための基礎づくりをサポートします。



島根に学び主体性を育む - フィールド学習教育プログラム

キャンパスから飛び出して、人と触れ合い、自然と触れ合い、文化・歴史と触れ合いながら学問する。これが島根大学のフィールド学習教育プログラムです。学生は、本学が位置する島根県の、身近で豊かな自然環境、社会的・文化的環境を エリア・キャンパス と見立てて、地域の方々や様々なものと実際に触れ合い、知識と体験を運動させながら学習をします。学生がそれぞれの個性を發揮し、自分自身の問題を見つけ、教員を含む仲間と力を合わせてその学生なりの答えを見つける。このような問題発見・解決型学習は、その学習結果のみならず、プロセスそのものがフィールド学習の学びの対象となります。こうした教室では得難い多面的な学びを島根大学では積極的に導入し、サポートしていきます。



環境マインドを育てる - 環境教育プログラム

松江キャンパスでは平成18年3月、出雲キャンパスでは平成20年3月に環境マネジメントシステム(国際規格ISO14001準拠)を取得しました。総合大学でISO規格を取得したのは、全国でも本学が初めての事例です。これを受けてより環境に配慮し、そして自発的に行動する環境マインドを育む取り組みが全学で行われています。そうした力を養う環境教育についても、コア科目「環境問題通論」を初めとした多数の授業科目が開講されており、それらが「環境関連科目ガイド」として体系化されています。

University Identity 2

特色ある地域課題に立脚した 国際的水準の研究推進

幅広い分野にわたって高度な研究成果を蓄積し、それぞれの分野においてアクティブな知能集団として研究活動を推進するとともに、多様化する社会の要請に柔軟に対応できる研究組織の拡充強化を図ります。大学の使命を果たすためには、学問の自由の理念に基づき、常に自らの教育研究活動に対する点検・評価を行い、新たな知的創造に向けての努力を行います。また、大学院における教育研究活動をさらに推進し、地域に密着した個性的な研究及び国際的レベルの独創的な研究を重点的に育成するとともに、人類に共通な知的財産の継承発展や社会貢献を目指す学問領域も大切に学風の構築を行います。

学部の枠を超えた研究活動「プロジェクト研究推進機構」

自然環境と人間の調和を実現する先端的研究

次のような領域について全学的に取り組むべき具体的研究テーマを設定し、本学の特徴ある研究を集中的な経費配分のもとで推進しています。

地域社会の課題に対応し、産学官が連携して学術的・文化的・経済的価値を創出する研究
医学系と人文社会科学系、自然科学系、工学系の連携融合によって新たな展開が期待される過疎・高齢化等の諸問題の解決をめざした研究
本学の研究業績の蓄積・立地条件等を活かした国際的に通用する創造的な研究

重点的に取り組む研究プロジェクトは「プロジェクト研究推進機構」の次のような各部門に位置づけられ、期限と目標を明確にして集中的に進められます。

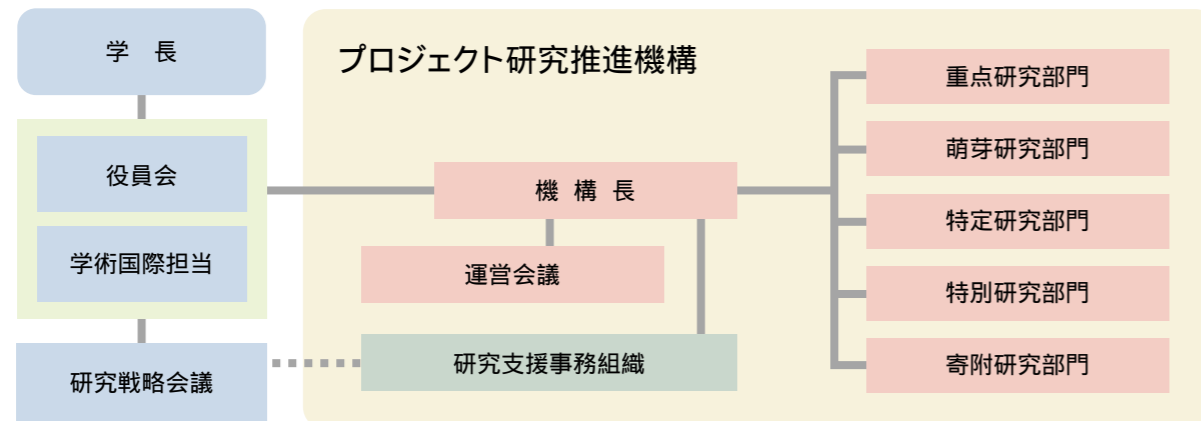
重点研究部門 中期計画に沿った具体的研究テーマを学際的に推進し、本学の特色ある研究として国際的な研究拠点を目指す研究プロジェクトで構成されます。

萌芽研究部門 数人規模の個別テーマや小規模な学際的テーマで、近い将来本学の重点研究プロジェクトへの発展が期待される研究プロジェクトで構成されます。

特定研究部門 本学が地域貢献、国際貢献などの目的で政策的に取り組むべき研究プロジェクトで構成されます。

特別研究部門 既に外部資金等を獲得している研究のうち本学が重要な研究と位置付け学内外に可視化する研究プロジェクトで構成されます。

寄附研究部門 外部からの寄附によって設置される研究プロジェクトで構成されます。



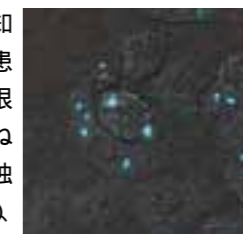
重点研究プロジェクト

本学が本年度から重点的に取り組む特徴的な研究には次のようなものがあります。

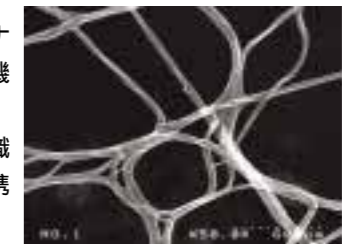
S-匠ナノメディシンプロジェクト

島根大学発のナノテクノロジーを用い低コストで安全な新しい診断・治療の基礎技術開発を目指す。高齢化が進む地域で患者の割合が増加するがんやアルツハイマー型認知症の診断・治療に有効な高度医療技術は高額な治療薬や設備が必要で、患者負担を増加させる問題があります。本プロジェクトでは、これまでに島根大学が世界に先駆けて開発してきた「低コスト」「簡易」「実用性」を兼ね備えた材料技術をもとに、「安心」「安全」で高機能な地域に貢献できる独自のナノ医療技術を開発します。プロジェクト名の「S」は島根大学、安全(Safe)、簡易(Simple)、経費と時間の節約(Save)を意味します。

ここで用いるのはベビーパウダーの原料である酸化亜鉛やデザートで食べられるナタデココ、ゼリーなどの身近で安全な材料です。これらが持つ発光や薬物保持の機能を応用してがんの早期診断・治療などの画期的な技術が生まれつつあります。これらの技術は材料作製から臨床応用までが小規模な施設で完結でき、町工場の職人“匠”に通じる総合的な技術伝承が可能であり、本プロジェクトは医・理工・農連携による新しい教育研究分野の人材育成も目指しています。



酸化亜鉛系蛍光標識剤で生きた細胞の動画撮影に成功(取り込んだ酸化亜鉛の蛍光を発するマウスの細胞)。がんの早期診断への応用が期待できる。



バクテリアがつくるナノサイズの繊維であるナタデココ(走査型電子顕微鏡写真)。これを用いた電気泳動による高速診断技術や抗菌薬含有骨セメントなどの開発が進行中。

地域資源循環型社会の構築

「しまね型」の持続可能で活力ある地域を目指す。

島根県内の優れた地域資源を発掘し、その循環利用のあり方を考究し、持続可能な地域資源循環型社会の構築を目指します。本プロジェクトでは6つのサブグループが連携しながら研究を進めています。

- 1) 宍道湖・中海における、機関・情報ネットワークの構築、生息場所のモニタリング、有用水産生物資源バンクの開発、
- 2) 循環型社会を見据えた流域の統合的な管理、
- 3) 水環境修復技術および貴重資源循環利用技術の開発、
- 4) 持続可能な農業基盤施設の機能保全と自然再生技術等の開発を行っています。加えて、木材、堆肥、汚泥等のバイオマス利活用に着目し、
- 5) 物質利用およびバイオエネルギーとしての循環利用、
- 6) 低環境負荷型栽培体系と資源の高度利用を提案しています。

これまで、本庄水域西部承水路堤の撤去による水質・底質の変化の確認、鉄バクテリアと木質バイオマスを使った自然水域中のリン回収による肥料化、ピラ-導入Mg-Al-Cl型ハイドロタルサイト化合物による排水からのリン回収・再資源化、現地調査の結果から水路の健全度を評価するシステムの開発等の成果を得ました。そして、菌体肥料・未利用有機質資源利用促進協会の法人化への取り組みや米バイオエタノール生成にかかる高生産性酵母の単離等も行ってきました。また、生物資源科学研究科で行っている地域再生人材創出拠点の形成事業やそのリカレント特別コースと連携し、地域再生に資する人材の創出も目指しています。





University Identity 3

地域問題の解決に向けた社会 貢献活動の推進

山陰地域・環日本海地域という本学の置かれる地域の歴史的・地理的特性を生かして、人類に共通の財産としての学術・文化の継承発展を担い、さらに、地域固有のテーマに関する知的創造を通じて普遍的な真理を探究するとともに、本学が有する知的財産を活用して、教育・研究・文化の拠点として地域社会の発展に貢献します。このため、大学全体として地域のニーズに応える体制を構築することにより、地域に必要とされ、信頼される大学を目指します。

産学連携の具体例

地域医療の向上を目指す!遠隔診療のための双方向通信システムを開発

医学部附属病院の花田英輔准教授は、山陰電工株式会社(出雲市)と出雲市と連携して、双方向遠隔通信システム「ミュー太」を開発しました。その後、有限会社小村産業(出雲市)や株式会社ワコムアイティ(松江市)も加わって改良を重ねています。高齢化・過疎化が進む島根県では、地域医療の崩壊を防ぐことが大きな課題となっていますが、本システムを用いることにより、専門医と相手の医師の円滑な意思疎通、また遠方の患者の診察が可能になります。「ミュー太」は上りの通信速度が1Mbpsあれば皮膚科診療が可能な高画質動画を伝送でき、光ファイバー網が貧弱な島根県に有効なシステムです。平成17年度から3年間の文部科学省「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」の補助により、本システムを用いて医学部附属病院から益田赤十字病院(益田市)や隠岐諸島の国民健康保険浦郷診療所(西ノ島町)など地域医療機関を結び、皮膚科遠隔診療や研修医教育等を定期的かつ継続的に進めています。本システムは、医療だけでなく、入院中の児童や老人ホーム入居者のコミュニケーション手段としても活用でき、多方面から注目を集めています。



島大発の新技术!自骨スクリューを使った新骨折治療法の開発

医学部の内尾祐司教授を中心とする「健康長寿社会を創出するための医工連携プロジェクト(骨格系グループ)」(平成16~19年度)は、手術中に患者自身の骨をビーナッツ大の大きさに取り出し、それを手術室の中で骨スクリュー(骨ネジ)に形成し、骨折部分に差し込んで止めるという新しい骨折治療法を開発しました。手術室用のマイクロ加工機はナノ社(横浜)との共同で、硬性小物等は岸エンジニアリング(出雲市)や深井鉄鋼(出雲市)との共同で開発しました。従来の金属スクリューによる治療と比べ拒絶反応やネジ抜き取りの再手術がないなどのメリットのほか、数ヶ月後には、周囲と同質の骨に変わるため、完全な生体適合が期待できます。これまで6例の臨床試験を行い、慎重に有効性と安全性を検討しています。また、高機能化や多用途化に向けた取り組みとして、骨スクリューの表面をプラズマ加工することや(地域新生コンソーシアム研究事業、エステック社(東出雲町)、アドテックプラズマテクノロジー社(福山市)、島根県産業技術センター(松江)、画像解析によって手術の安全性をわかりやすく提示することにも取り組んでおり、本研究チームは、これらにより産学連携の研究拠点形成、ベンチャー企業の設立を目指しています。



中・小規模排水処理施設用高性能リン除去・回収装置の開発

生物資源科学部の佐藤利夫教授は、「中・小規模排水処理施設用高性能リン除去・回収装置」を財団法人しまね産業振興財団を管理法人として、株式会社イズコン、帝人エンジニアリング株式会社、クリオン株式会社と共同開発しました。(平成18年度中国経済産業局「地域新生コンソーシアム研究開発事業」)。この装置は、高性能なリン吸着剤(HTCF)を用いて、汚泥を発生せずに排水中からリンを効率的に除去・回収・再資源化することができ、かつ維持管理も容易でコンパクトな省エネ型の高性能リン除去・回収装置です。中・小規模排水処理施設にも設置可能で、平成20年3月に実用試験装置が完成しました。本技術の普及により、全国有数の汽水湖である宍道湖・中海の内水面水産業および水の都松江の観光産業の活性化、さらに資源化産業による地域活性化が期待できます。また今後は、全国の農業集落排水処理施設や集合浄化槽などの処理施設への普及も期待でき、湖沼や内湾等の閉鎖性水域の水質浄化と同時に、枯渇資源であり最近高騰しているリンの再資源化を可能とする技術として注目を集めています。本技術は平成20年度に中国地域産学官コラボレーションセンターから、「共同研究・技術移転功労賞」を受賞しています。



リン除去・回収槽

地域に飛び出す学生たち

スポーツを通じた交流

陸上競技部では、陸上競技の普及・振興を願い、島大リレーカーニバルを開催しています。島根・鳥取両県より小・中学生を中心に毎回約300名が参加し、熱戦が繰り広げられています。また、ボート部は水の都ならではの行事「レガッタ」の運営に参加するとともに、ボート競技の普及活動に積極的に関わっています。さらに各種スポーツ競技団体は、地域で開催される競技会へ補助員として参加、また学校等に向いて学童に実技指導等を行っています。



市民レガッタ

ボランティア活動

ボランティアに取り組む学生が多いのも島大の特徴の1つです。療養所や保育園との交流、遊びを通じて世代間交流を図るブレブレまつえキッズ、献血推進サークル「ぐっば」等々、笑顔と心で地域との交流を深めています。また今年度よりボランティア活動やサークル活動などの正課以外の諸活動を頑張る学生を応援するビビットカードができました。



<http://shienp.shimane-u.ac.jp/>

大学の開放



楽しいサツマイモ栽培



アジア途上国における環境汚染について考える



春・秋の農場祭り

松江市上本庄町の「附属生物資源教育研究センター」(通称:本庄農場)において、春と秋に農場祭りを実施しています。地域の人々にとっても恒例行事となっています。



日本の伝統芸能・文化



水泳教室

公開講座

島根大学には市民に開放された施設、そしてバラエティーに富んだ公開講座が用意されています。生涯学習教育研究センターを中心に、これまで県内の多くの市町村において公開講座を実施しました。これからも様々な講座を企画し、地域の生涯学習意欲に応えていきたいと考えています。



University Identity 4

アジアをはじめとする諸外国との交流の推進



交流協定締結校がある国

最先端の学術・文化に関する情報を世界に発信するとともに、研究者・技術者・学生による学術・技術・文化の交流を通じて国際社会に貢献します。特に、環日本海地域との国際共同研究、学術交流及び留学生交流に重点を置きます。

人情に厚く、住みやすい島根県に所在する本学の歴史的・地理的特性を生かして、日本の自然と文化に触れさせ、外国人研究者との共同研究や「未来からの大使」としての留学生の教育や交流などを通じて大学の最新情報を世界に発信します。

学術交流

島根大学では、研究者の自由な学術研究活動により、様々な共同研究や国際プロジェクトを実施しています。相手国の大学や研究機関から留学生や研修員を本学に一定期間受入れを行い、より前進した共同研究やプロジェクト、先進的な技術面の普及支援を展開しています。また、本学の位置する地理的特性を活かして、環日本海地域の文化交流、自然環境についての国際共同研究、ワークショップ、国際会議を行っています。

中国 寧夏大学及び寧夏医科大学との連携による学術交流

寧夏大学及び寧夏医科大学と本学は長年にわたり学術交流を行っています。2005～2007年度の3年間には、両大学の研究者を「寧夏特別研究員」として受入れ、人材育成研修を行いました。この研修は従来からの学術交流を更に進めたものであり、両大学と本学との交流連携体制を強化するとともに、国際貢献の観点からも有益なものでした。この研修の修了者が将来、本学で得た成果を発揮し、活躍することが期待されます。



修了証書授与式後の記念撮影(2007年6月18日)



米国 アーカンソー大学との連携による春期海外研修

アーカンソー大学で毎年春に本学の学生が約3週間の海外研修を行っています。この研修はアーカンソー大学英語学習センターでの授業、ホームステイ体験、カンパセーションパートナーとの交流、豊かな自然環境の中での野外活動など、様々な体験を通し、実践的な生きた英語を学びます。

研修終了式後の1コマ(2009年3月)

大学間交流協定締結校

2009.5.1現在

大学等名	国名	協定締結日	大学等名	国名	協定締結日
セントラル・ワシントン大学	アメリカ合衆国	1982. 3.26	山東大学	中華人民共和国	2005. 7.20
ケント州立大学	"	1982. 8.31	浙江大学教育学院	"	2006. 3.31
カリフォルニア大学デイビス校	"	1986. 2.11	釜山教育大学校	大韓民国	1990. 3.23
アーカンソー大学	"	1993. 3. 1	慶尚大学校	"	1991. 3. 5
コロラド・デンバー大学医学部	"	2006. 2.23	慶北大学校	"	1991. 3. 6
テキサス大学ダラス校	"	2007. 8.10	ソウル産業大学校	"	1998. 4.22
東北林業大学	中華人民共和国	1989.12.28	延世大学校	"	1989. 6. 3
南京林業大学	"	1993. 4.15	ジャン・ムーラン・リヨン第3大学	フランス	1990.11.24
中国農業大学	"	1996.12.29	オルレアン大学	"	2002. 7.12
寧夏大学	"	1997. 8.18	アンリ・ポワカレ・ナンシー第1大学	"	2003. 1.15
北京林業大学	"	1997. 8.23	モンゴル科学技術大学	モンゴル	1999. 3.24
吉林大学	"	1999. 2. 1	モンゴル健康科学大学	"	2002.10. 4
河北師範大学	"	2002. 7.29	トリバン大学	ネパール	1991.12. 8
大連大学	"	2003. 6.30	アングラス大学	インドネシア	1997. 5. 6
上海交通大学医学院	"	1987. 6.27	ハノイ医科大学	ベトナム	2005.10.17
寧夏医科大学	"	2004. 2.27	トリア大学第2学部	ドイツ	2008.11.20
北京師範大学	"	2004. 3.18	リンショーピン大学	スウェーデン	2005. 4.21
中国人民大学経済学院	"	2005. 4.14			

島根大学・寧夏大学国際共同研究所

1987年、本学農学部(現生物資源科学部)の教員が、外国人として初めて中国寧夏回族自治区南部山区に入り学術調査を行いました。それがきっかけとなり、本学と寧夏大学との研究交流が始まり、交流を開始して10周年にあたる1997年には両大学間で交流協定が締結されました。その後、2004年3月に長年の両大学間の研究交流を本格発展させると共に、人材育成事業に協力するため、JBIC(国際協力銀行)の中国政府に対する円借款事業により、寧夏大学キャンパス内に共同研究所を設置することに合意し、2005年9月に島根大学・寧夏大学国際共同研究所新棟が完成しました。本研究所では島根大学側と寧夏大学側双方の研究者が共同で調査と研究を進めています。本研究所は、都市と農村との地域間格差問題、中山間地域(条件不利地域)の活性化、開発と環境問題などを主要なテーマとして共同研究を行い、研究成果をアジアをはじめとする世界に発信するとともに、人材の育成・交流の積極的な展開、国内外の研究者に開かれた中国西部地域研究の拠点づくりを目指しています。2007年は寧夏大学との学術交流開始20周年にあたり、同年10月に寧夏大学で、そして、2008年4月には本学及び松江市内で国際シンポジウム及び記念行事を実施しました。



研究所の業務内容

- 研究事業(主なテーマ)
 - 「寧夏南部山区と日本の中山間地域の持続可能な発展に関する研究」
 - 「生態系・環境の保護と再生に関する調査研究」
 - 「農村経済と社会発展の比較研究」等
- 学術交流、国際学術フォーラムの開催(日本・中国)
- 図書資料の蓄積と提供
- 島根県、松江市等の国際交流事業への協力



University Identity 5

学問の自由と人権の尊重、社会の信頼に応える大学運営

教育研究環境の向上・充実を図るために、教員組織と事務組織その他全ての職員組織を有機的に機能させ、大学においては学生へのサービス体制と教育研究、附属病院においては教育研究及び医療を重視した管理運営を目指します。このため、本学独自の多面的な自己点検・評価及び外部評価を活用し、学長のリーダーシップと補佐体制の充実による企画・立案機能の向上と迅速かつ合理的に目標や計画の実行が可能となる管理運営組織を構築するとともに、その責任体制を明確にします。

また、教職員・学生の声反映され、透明性のある管理運営を行うとともに、教職員にとって働きがいのある職場環境の充実を図ります。

学生・教職員みんなの「声」が創る島根大学



学生の意見を大学教育改善に取り入れるための全学的取り組みは、教育開発センターを中心として2002年度より「学生との意見交換会」として開始されました。その後2006年度より「学生による教育座談会 - 語ろう!島根大学 - 」へ、2008年度より「We are 島大生!」として常によりよい形へと改善を図っています。この企画は、特に学生のみなさんが島根大学(授業や教育活動など)に対して抱いている素朴な疑問やニーズ等について、学部・学科・学年の枠を超えて議論・発表することを通じて、本学の教育改善の一助とさせてもらうとともに、島大生としてのアイデンティティ・所属意識を高め、自信を付けて主体的に大学での学びに取り組んでいくことを目的として、「We cam プロジェクト」なる組織を立ち上げて学生メンバーと一緒に創っているものです。2008年度は学生・職員・教員が共通のテーマ「あなたが動けば「授業」は変わる!」についてワークショップ形式で討論・作業を行い、最後にそれぞれ発表を行いました。今後もこうした場を設定し、学生の声を真摯に受け止めながら、本学の教育の発展に寄与するべく様々な活動を展開していきたいと思ひます。

環境に関する島根大学の社会貢献

コミュニケーション

島根大学では、地域社会の一員として、地域のみなさんの環境問題に関する声に耳を傾けます。また、環境教育・研究の成果を地域に向けて発信していきます。学内のコミュニケーションについては、「キャンパス環境投書箱」をweb上(学外からはアクセスできません)に設置したり、屋外でランチミーティングを開催したりして学内の環境問題について広く学生・教職員の意見を集約しています。



地域社会とのコミュニケーション

地域のみなさんの声は、EMS実施委員会で審議・調査しています。これらの声に基づき、国道沿いにはみ出していた樹木のせん定や自転車マナーの向上の指導・周知を行いました。

学内とのコミュニケーション

学内の環境問題等に対して教職員、学生の皆さんからご意見・お問い合わせ等を投稿いただく「キャンパス環境投書箱」を設置しています。島根大学ホームページからアクセスできます(学外からはアクセスできません)。投稿内容は、EMS委員会で検討されます。緑地等の自然環境の保全、廃棄物の減量化、処理及び再資源化、省エネルギー、交通問題対策、環境教育、環境マネジメントシステム、その他学内環境の改善、の事項についてご意見・お問い合わせを受け付けています。

第三者評価について



全国初、附属病院を含む全学でISO14001の認証取得

松江キャンパスでは、2006年3月に川津地区についてISO14001の認証を取得しました。2007年3月には大輪地区(附属小学校、附属中学校、附属幼稚園)及び本庄地区(本庄総合農場)も認証され、認証範囲を拡大しました。2008年3月には出雲キャンパスについても認証され、全学での認証を取得しました。

医学部及び附属病院を含む大学全体としての認証取得は、国公立大学の中でも全国初のことであり、これを機に今後も環境に配慮した活動に努めます。

医学部附属病院が「働きやすい病院評価」及び「プライバシーマーク(JIS Q 15001)」の認証を取得

医学部附属病院では、特定非営利活動法人「女性医師のキャリア形成・維持・向上をめざす会」(ejnet)が行う「働きやすい病院評価」の認証を平成19年3月11日に取得しました。全国の大学病院では初めてであり、全病院を通して全国で6番目の認証取得となるものです。「働きやすい病院評価」の認証を取得することにより、医師、看護師、復職希望の女性医師等医療従事者への認知度の高まりを期待し、そのことによって優秀な人材の確保を行うとともに、患者さんの信頼感・安心感の醸成、ひいては患者さんに選ばれる病院となることを目的としているものですが、病院内保育所の設置、「女性にやさしい病院ワーキンググループ」の設置等を通して、病院長を中心とした就労環境改善への前向きな姿勢が評価されたものと思われます。

また、医学部附属病院では、平成19年2月23日に全国の大学病院では2番目となる「プライバシーマーク(JIS Q15001)」を取得しました。「プライバシーマーク(JIS Q15001)」とは、事業者が個人情報保護の取扱いを適切に行う体制を整備していることを証明するものであり、プライバシーマークを病院ホームページや院内等に表示することにより、今後とも、患者さんの個人情報の保護に関する意識の向上に努めます。



法文学部 人文社会科学研究科



Faculty of Law and Literature
Graduate School of Humanities and Social Science



人を知り、人を創る

私たちは、他者との関わりのなかで自己という存在を強く意識しヒトから人へと成長していきます。人を知り、人を創る技を磨くことが、社会を、国家を、世界を知ることにつながっていくのです。全国屈指の少人数教育に情報技術や国際交流をとり入れた法文学部をステップとして、世界へ、人間探求へと飛躍してください。

人文社会科学研究科

法経専攻

言語・社会文化専攻

法文学部

法経学科

社会文化学科

言語文化学科

詳しくは<http://www.hobun.shimane-u.ac.jp/>をご覧ください。

法経学科

法経学科では、経済学と法学の両面から社会について学び、民間企業の法務・金融担当者や司法書士、行政書士等の法律経済関係の専門、一般職に就く人を育成するだけでなく、法科大学院やビジネススクール、研究者養成大学院等に進学する人を育成します。他方で地域には、環境、少子高齢化、地方分権、中山間地域、地域振興等、解決すべき課題が山積みしています。これらの課題の解決に必要なとされる法学・経済学の基礎的な知識と応用力を身につけ、分析能力・政策立案能力や問題処理能力を養うことによって、国・地方公共団体等の行政部門やNPOで活躍できる人を育成します。

法廷教室における専門演習(民事模擬裁判)の光景



社会文化学科



社会文化学科は現代社会・歴史と考古・福祉社会の3つのコースに分かれています。コースの所属は入学後、志望及び成績に基づいて決定されます。

現代社会コース

人間と環境、地域と人間の相互関係、地域社会の構造や機能、文化の特徴などを体系的に理解する視点を養います。座学中心の講義や演習に加えて、実験や観察、社会調査やフィールドワークなどの実習を通してデータ収集と分析技法を実践的に学びます。

歴史と考古コース

歴史学では、日本史、東洋史、西洋史、現代史について専門的に学び、考古学では、日本考古学を中心に学び、理論と実地調査双方への認識を培うことができます。研究室は学生によって自主的に運営されており、テーマを選んで主催される自主ゼミのほか、研修旅行なども毎年企画されています。



福祉社会コース

福祉社会コースは、現代社会の重要テーマである社会福祉の問題に取り組み、地域社会に貢献できる人材養成のために設置されました。講義や演習に加え、福祉現場での実習を通して社会福祉の全体像を学ぶことができます。本コースでは所定の科目を履修すれば、社会福祉士国家試験の受験資格が取得できます。

言語文化学科

日本東アジア言語文化分野

日本語学・日本文学の分野では、古代から現代にいたるまでの日本語と、それによって生み出された文学について幅広く学ぶことができます。中国語学・中国文学の分野では、遠く神話、甲骨文字の時代から、現在活躍中の中国作家の作品にいたるまで、広く研究することができます。



英米・ヨーロッパ言語文化分野

【英米言語文化】文学作品を鑑賞しながら分析方法を学んだり、日米文化を比較することで異文化理解を深めます。また、英語を母国語とする教員を中心に発信型の英語コミュニケーション能力の向上を目指します。

【ドイツ文化】ドイツ語の読解力と表現力を涵養し、ドイツ及びドイツ語圏の文化を広く勉強し、幅広い視野と分析力を身につけます。

【フランス文化】フランスの文学や文化テキストについて、文法的及び内容的な読解力や分析力を身につけます。交流協定大学への留学を視野に入れた実践的な指導もあります。

文化の創造と理解分野

人が生み出したものを理解し、その理解をもとにしてさらに創造する この分野では、継承・衝突・創造が繰り返す人間の文化活動を研究の対象にします。また、芸術・文学・映画・音楽などの作品にも実際に触れながら、文化理解のための技術を習得していきます。

大学院

人文社会科学研究科

法経専攻(法政コース・地域経済コース)

言語・社会文化専攻(言語文化コース・社会文化コース)

入学した大学院生は、各自の研究課題や修了後に目指す進路に応じた4コース(法政コース、地域経済コース、言語文化コース、社会文化コース)のいずれかに属し研究のスキルをすすめ、各分野の高度な専門的知識と技法を習得します。さらに、学際的・国際的な研究を通じて、総合的実践的能力を育むことも目指します。

詳しくは<http://www.hobun.shimane-u.ac.jp/graduate/index.html>をご覧ください。

SHIMANE UNIVERSITY

教育学部
教育学研究科



Faculty of Education
Graduate School of Education



体験が育む、プロの教育実践力

教員養成に特化した専門学部

教育学部は、全国的な教員養成学部の再編・統合の先駆けとして、21世紀の教育改革をリードし、地域の教育課題の解明と解決に積極的にかかわる、山陰地域唯一の教員養成専門学部生まれ変わりました。

<主専攻・副専攻>方式学修システム

「専門科学教育科目」、「教科教育学」、「教科内容構成研究」に「卒業研究」を加えた11のパッケージ型カリキュラム(専攻)を設定しています。これらの専攻の中から1つの主専攻と副専攻を選択するという<主専攻・副専攻>学修システムを導入することで、一人ひとりの目的や関心、取得しようとする教員免許に応じて、さまざまな学びのかたちが実現します。

1,000時間教育体験学修の必修化

子どもとふれあう生きた体験学修を重視して、県内外の教育関連機関の協力のもと、学校教育外での教育・指導体験を中心とする「基礎体験」、「臨床・カウンセリング体験」、附属学校園における教育実習を中心とする「学校教育体験」の総計1,000時間の体験学修プログラムを必修とし、多様な体験活動に裏打ちされた教育実践力の向上を図ります。

教育学研究科

教育実践開発専攻

教育内容開発専攻

教育学部

学校教育課程

初等教育開発専攻 心理・臨床専攻 特別支援教育専攻
言語教育専攻 共生社会教育専攻 自然環境教育専攻
数理基礎教育専攻 人間生活環境教育専攻
健康・スポーツ教育専攻 音楽教育専攻
美術教育専攻

詳しくは<http://www.edu.shimane-u.ac.jp/>をご覧ください。

■初等教育開発専攻

「小学校教育のプロフェッショナル」の養成をめざします。

■特別支援教育専攻

心身に障害をもつ幼児・児童・生徒などを対象にした、個人差を配慮した指導の基礎となる知識や指導力を身につけた教師を育成します。

■心理・臨床専攻

学校教育のさまざまな側面に、心理学の視点、専門的立場から積極的に働きかけていける教師の育成をめざします。

■言語教育専攻

<国語教育コース> 日本語学、日本文学、漢文学、書写・書道、国語科教育学の5分野で専門的授業や卒業研究などを行っています。

<英語教育コース> 英語教育の理論と実践を学ぶのはもちろんのこと、英米文学の原典に触れたり、会話や作文を通しての英語運用能力向上にも力を入れています。

■共生社会教育専攻

歴史学、地理学、政治学、社会学、宗教学、社会科教育学等の専門分野に立脚した教科内容の研究能力を育成します。



■自然環境教育専攻

子ども達の知的好奇心を刺激し、自然を探究する楽しさを味わうことのできる指導法や教材開発について学びます。

■数理基礎教育専攻

数学についてより深い理解と、問題や課題、教材を見つける目を養い、的確な説明や指導のできる教員の育成を目指します。

■人間生活環境教育専攻

<家政教育コース> 現代社会の生活環境に対するニーズをゆとりとるおいのある快適な生活環境の創造として捉え、「創造性豊かな人間社会を築くことのできる教師を養成すること」を目的としています。

<幼児教育コース> 食育、健康、環境、ものづくり、子育て支援等の現代の課題を担う幼児教育教員の養成を目指します。



■健康・スポーツ教育専攻

健康科学やスポーツ科学の成果を踏まえ、学校や地域における健康・スポーツ教育を推進しうる教員の養成を目指します。

■音楽教育専攻

声楽、ピアノ、管弦打楽器、作曲、音楽教育学の各分野について、専科として1つの分野を深く追求するとともに、副科として幅広い分野も学びます。

■美術教育専攻

基礎造形能力の修得、専門性の深化、豊富な臨床的教育体験による美術教育理論と実践的授業展開力の強化などをめざした幅広いカリキュラムを用意しています。



大学院 教育学研究科

教育実践開発専攻 教育内容開発専攻

急速に国際化、情報化が進展する現代社会において、新しい時代を担うべき優れた教員を養成することが重要な課題となっています。本研究科は、「スクール・リーダー」となる高度な資質を有する学校教員の養成を目的とし、山陰地域における教員養成基幹大学院として現職教員および学部卒業生の双方に高度な専門性を獲得させ、地域の教育界を担う人材の育成を目指しています。そのために、学校教育現場における学校教育研究、授業研究の力を養成する「教育実践研究」科目を開設するなど、学部教育のカリキュラムとの有機的関連性を重視しています。また、教職経験3年以上の現職教員を対象に、通常の2年課程に替る「1年短期履修コース」を設置し、教育課程・教育方法等に特段の措置を講じることで現職教員が自ら求める専門職性の向上に努めています。

詳しくは<http://edu.shimane-u.ac.jp/edu/in-gaiyou.html>をご覧ください。

教育支援センター



センター実習室

教育と研究を支援する施設です。子どもの心と育ちの支援や臨床体験を企画・運営する教育臨床・教育相談センター部門と教材開発や教育実習・教育体験活動の企画・運営等を担当する教育実践・実習開発センター部門の2部門があります。

附属幼稚園・小学校・中学校



附属小学校

教育学部における教育の実践的研究および教育実習を行う機関として重要な役割を担っています。

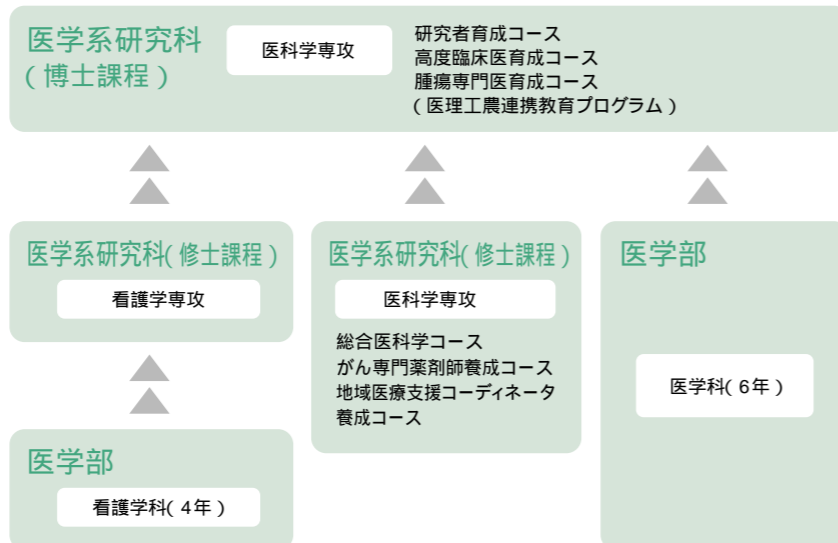
医学部
医学系研究科



Faculty of Medicine
Graduate School of Medical Research

次世代を担う医療人の育成と
先進医療の地域への還元

生命の尊厳と患者の権利・人格の尊重を教育の柱とし、
広い教養と高い倫理観を身につけ、科学的な探求心と総合的な判断能力を養い、
時代の要請に応じて地域に貢献する医師・看護師を養成することを目指しています。



詳しくは<http://www.med.shimane-u.ac.jp/>をご覧ください。

医学科

人の心がわかる優しさを備え、人々の健全な生活と健康増進に貢献しようとする強い意思をもち、とりわけ地域医療に寄与できる医師の育成を目指しています。全国に先駆けて、へき地出身者を対象とした地域枠推薦入試を行い、入学後は



地域医療の現場体験学習を重視して、県内の医療機関や福祉施設等において早期医学体験実習や地域医療病院実習を行っています。また、少人数グループによる問題解決型チュートリアル教育を臨床医学教育に導入しています。卒業生は、医師国家試験合格後、大学病院あるいは臨床研修指定病院で臨床研修を行った後、研修を続けながら第一線の医療に従事します。大学院(博士課程)に進学して、研究者あるいは高度臨床医・腫瘍専門医を目指す道も開かれています。



看護学科



医療の高度化が急速に進展する一方、高齢社会の到来によって、近年、人々の看護に対するニーズは益々増大し、多様化してきています。看護学科ではこうした社会の要請に応え、一人ひとりのニーズを的確に把握し、適切に援助していくことのできる専門性の高い有能な看護職を養成したいと考えています。

この目標を達成していくために、教育の重点として、第一に、自分で考え課題を解決していく能力、科学的に追求する能力を育むように、少人数による課題解決型の演習授業を多く取り入れ、4年次にはその集大成として「卒業研究」を課しています。第二に、病院や保健所、社会福祉施設等実際の場面で学ぶ臨床実習に力を入れており、実習を通して、対象者から学び、対象者とともに考え、実践していく能力を育成するよう指導しています。



大学院 医学系研究科

《博士課程》 医科学専攻
研究者育成コース 高度臨床医育成コース
腫瘍専門医育成コース

《修士課程》 医科学専攻 看護学専攻

医学及び看護学に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめて、医学の分野においては、研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力とその基礎となる豊かな学識を備えた優れた研究者の養成ならびに優れた研究能力を備えた臨床医・腫瘍専門医の育成を、看護学の分野においては、広い視野に立って精深な学識を授け、看護学における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力と、人間性を備えた優れた研究者又は高度専門職業人の養成を目的とし、併せて医学及び看護学の発展と人類の福祉の向上に寄与することを使命としています。



詳しくは<http://www.med.shimane-u.ac.jp/graduate/index.html>をご覧ください。



医学部附属病院

University Hospital

理念『地域医療と先進医療が調和する大学病院』



患者さん中心の全人的医療の実践
 人間性豊かな思いやりのある医療人の育成
 地域医療人との連携を重視した医療の提供
 地域社会に還元できる研究の推進



病院外來棟外観

昭和54年開設以来、県下唯一の特定機能病院として医療人教育、高度医療提供、臨床研究に当たってきました。平成17年には国立大学病院として初めてがん診療拠点病院に指定され、都道府県がん診療拠点病院としてがんプロフェッショナル養成プログラムを推進中です。昨年度から肝疾患診療連携拠点病院にも指定されました。病院機能評価は元より、プライバシーマーク、大学病院初の女性医師の労働環境を評価する「働きやすい病院機能評価」、附属病院としては全国初のISO 14001(環境マネジメント)も取得、ESCO事業も実施しています。文科省GPで140名のスタッフ等を海外病院研修に派遣し実践的臨床教育に取り組み、米国指導医等を招聘するなど、現在も継続中です。病院の増改築が始まり2年後には新病棟が完成予定です。立体駐車場も9月末には完成予定です。

詳しくは<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/index.html>をご覧ください。



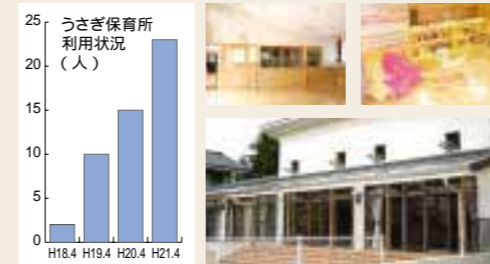
プライバシーマーク(JIS Q 15001)更新審査に合格

平成19年2月に全国の大学病院では2番目となる「プライバシーマーク(JIS Q 15001)」を取得しました。この度、有効期間2年を迎えるため更新申請を行い、平成21年2月に更新審査に合格しました。プライバシーマークとは事業者が個人情報保護の取り扱いを適切に行う体制を整備していることを証明するものです。



IVR - CT(画像誘導下血管内手術装置)

本装置は全国トップレベルの高性能機器で、腹部や四肢の血管内治療の強化のため平成20年3月に更新導入しました。高精細透視画像やCT画像を駆使し目的血管を明瞭に映し出すことができ、低侵襲の血管内手術を安全かつ確実に施行できます。



院内保育所「うさぎ保育所」

当院における子育て支援・女性のための職場づくりの一環として、平成18年に開設しました。保育希望者の増加に伴い、平成21年5月には増改築工事が完了し、保育環境の充実に努めています。



日本版WWAMIプログラム

「夢と使命感を持った地域医療人の育成プログラム」で、140名のスタッフ、学生を派遣し臨床医学教育視察体験研修を行っています。



「働きやすい病院評価」 「病院機能評価(Ver5.0)」

平成19年3月に、女性医師・すべての医療従事者が安心して働くことができる病院として「働きやすい病院評価」の認証を受け、平成20年3月には、病院の現状を様々な角度から確認し、基準を満たした病院として「病院機能評価」の認定を受けました。



内視鏡手術トレーニングセンター

本センターは、体系的カリキュラムのもとに技能訓練を行うことで、優れた技術を備えた医師を育成し、本院並びに山陰地区の各施設で行われる内視鏡手術の安全性向上と普及を図ることを目的として平成20年3月に設立されました。



ボランティアコンサート

病院1階待合ホールで月1回コンサートや落語、手品など多彩なイベントを開催しており、毎月患者さんに楽しませて頂いています。



ランチカフェ ラパン

附属病院2階にある病院食堂が平成21年4月に「ランチカフェ ラパン」としてリニューアルオープンしました。地元産の「安全・安心・新鮮な野菜」を使用しており、食の安全を第一に考えたメニューを取り揃えています。

総合理工学部 総合理工学研究科

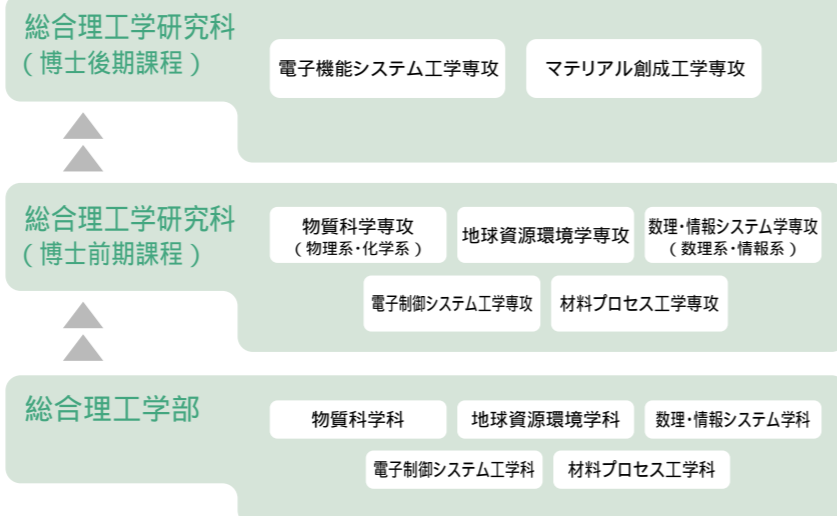


Interdisciplinary Faculty of Science and Engineering Interdisciplinary Graduate School of Science and Engineering



科学・技術が創る人間の未来

最新の手法を駆使して自然科学を解明しようとする理学系分野と、未来の最先端科学技術を担う工学系分野が、既存の学問分野の枠を越えて1つの学部で総合、融合、一体化した全国的にもユニークな学部のひとつです。素粒子サイズから地球サイズまで、さまざまな対象を科学的に捉え、基礎理論から先端技術への応用まで幅広く扱う学際教育・研究システムを特色としています。



詳しくは<http://www.riko.shimane-u.ac.jp/>をご覧ください。

物質科学科

物理分野

物質科学科・物理分野では、素粒子論から新素材開発まで、物質に関する幅広い研究が行われています。ここでは物質の基礎と応用を、物理学の視点から学びます。2年次までは主として物理学の基礎科目を修得し、3年次から次第に、物理学の専門科目とともに、材料科学の専門科目を履修して行きます。卒業研究では、これらの履修に基づいて、幅広い分野を選択することが出来ます。物理分野の教育プログラムは、日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を受けています。



化学分野

物質科学科化学分野は、化学の基礎から応用まで深く学びたい人、新機能を持つ物質を研究したい人、応用技術を修得したい人のための教育を提供しています。JABEE対応の技術者教育プログラムに基づき、基礎的・専門的知識を基に、自主的に仕事を立案実行できる技術者の養成を目指す機能材料化学コース、基礎から応用に及ぶバランスのとれた幅広い知識を基に、様々な分野で活躍できる人材育成を目的とした基礎化学コースがあります。



地球資源環境学科

地球資源環境学科は地球物質システム学、環境地質学、自然災害工学の3講座からなり、地質学から工学分野まで総合的に教育・研究する、特色ある学科です。本学科では、充実した最新の研究設備を駆使して教育・研究を行っています。また、国内外の地質見学をはじめ、実験・実習を重視したカリキュラムを組んでいます。



大学院 総合理工学研究科

《博士前期課程》 物質科学専攻(物理系・化学系) 地球資源環境学専攻
数理・情報システム学専攻(数理系・情報系) 電子制御システム工学専攻
材料プロセス工学専攻

総合理工学研究科は5専攻19講座を擁し、これらの各専攻では学際領域の研究開発やそれに携わる高度技術者育成という社会要望に応え、従来の細分化された学問領域にとらわれず、科学技術の総合化を目指す新たな理工融合理念に則した研究・育成システムを実践しています。また、外国人留学生とともに修学する『英語による「地球」教育研究特別プログラム』が設置されています。さらに、理工学と医学が融合した分野の教育研究を推進するために、『理工・医連携プログラム』を平成21年度より新設しました。

詳しくは<http://www.riko.shimane-u.ac.jp/master/master.html>をご覧ください。

《博士後期課程》 マテリアル創成工学専攻 電子機能システム工学専攻

高度な研究開発能力を身につけ、科学技術の創造に貢献できる人材を養成します。また、『英語による「地球」教育研究特別プログラム』も設置されています。さらに、理工学と医学が融合した分野の教育研究を推進するために、『理工・医連携プログラム』が設置されています。

詳しくは<http://www.riko.shimane-u.ac.jp/doctor/doctor.html>をご覧ください。

数理・情報システム学科

数理分野・情報分野

本学科は、数理構造コースと数理解析コースの数理系の2コース、及び情報システムコースと情報工学コースの情報系の2コースから構成されています。数理科学と情報科学・情報工学の有機的関連性や共通性を教育の基礎として、今日の両学問の体系と特色を教育・研究しています。1年次に数学と情報の基礎を学び、2年次以降は数理系や情報系の専門教育を学び、幅広い知識と視野、豊かな着想、柔軟な思考力、適切な判断力を持ち合わせた国際性豊かな専門技術者や教育を含む諸分野で指導的役割を果たせる人材を育成します。特に、両系の特色・独自性に基づいて、数理系では構造論的抽象数学や諸現象の数理科学的解析のための現代数学、情報系では物(ハードウェア・ソフトウェア)作りとこれを支える種々の体系の方法を教育・研究しています。



電子制御システム工学科

本学科は、機械工学、電気工学、および電子工学の3分野を融合した学科です。これらの分野の核心的基礎を幅広く学習した上で、各分野に対応するコースの専門科目をより深く学ぶことにより、高度情報化社会を支える技術者として必要な専門性を修得し、激動の21世紀で活躍できる人材の育成を目指しています。本学科の教育プログラムは、JABEE(日本技術者教育認定機構)の認定を受けています。



材料プロセス工学科

材料プロセス工学科の教育は、健康で快適な生活と、資源循環型社会の実現のために材料設計、プロセス設計(生産プロセス設計・循環プロセス設計)、製品設計(建築設計・機械設計)の全般に対応できる、広い知識と独創性を兼ね備えた人材の育成を目指して、教育を行っています。



生物資源科学部 生物資源科学研究科



Faculty of Life and Environmental Science
Graduate School of Life and Environmental Science

“いのち”あふれる地球を育む

本学部では、生物・生命を、人間社会と広範で多様な関係を有する存在という広い意味での資源と捉えます。そして生命現象の基本原理解から、生物資源の育成、利用、開発保全とそれを育む環境に関する広い分野を教育研究の対象としています。

生物資源科学研究科

生物生命科学専攻 農林生産科学専攻 環境資源科学専攻

附属生物資源教育研究センター

生物資源科学部

生物科学科 生態環境科学科 生命工学科

農業生産学科 地域開発科学科

詳しくは<http://www.life.shimane-u.ac.jp/>をご覧ください。

生物科学科

生物の営みについて総合的な知識と理解力を身につけることができるよう、基礎から先端領域までをカバーするカリキュラムを用意し、幅広い視野と深い専門的実践力を兼ね備えた人材を育てます。学科は「細胞生物学講座」と「生物機能学講座」の2講座編成ですが、カリキュラムにはこの区分がなく、学科全体で分子、細胞から生物集団に至る様々なレベルの教育研究を行っています。島根県の自然を扱った研究もこれに含まれます。



生態環境科学科



生態系を保全しながら持続的に利用するためには、各種の生態系（森林、農地、水、土壌、動物、微生物など）について正確な知識を学び、人間生活と生態系との係わりをよく理解する必要があります。生態環境科学科では、生態系の保全・評価・修復・有効利用の実践と、それに貢献できる人材の育成を目的として、「環境生物学講座」「生態環境工学講座」「森林環境学講座」の3つの講座で教育・研究を行っています。

生命工学科

化学と生物を基礎的知識として、ライフサイエンスとバイオテクノロジーの分野をカバーする先端的な学問領域を包括している学科で、2つの大講座からなります。微生物、植物、動物を題材として、遺伝子やタンパク質の機能を理解し、細胞や分子レベルでの解析を通して生命現象を解明する基礎的な学問から、人類の生活や産業に貢献する医薬品や食品の開発につながる応用的な学問まで、幅広い教育と研究を行っています。



農業生産学科

地球温暖化、土壌や水質汚染などの環境悪化、食品の品質や安全性の低下、将来の食糧不足への不安など現代社会における食糧問題の解決が迫られています。農業生産学科では、社会、生産者、消費者のニーズにどのようにこたえていかなど農業をとりまく諸問題に関わり、解決していくための教育・研究を行っています。「食糧生産学講座」はカロリー源となる農作物や動物性食糧の生産について、「植物資源開発学講座」は園芸作物の生産、保蔵、繁殖、品質改良について、「生産技術管理学講座」は農業現場での、効率的、先端的生産管理について研究を行っています。



地域開発科学科

豊かな地域社会、自然環境の保全および持続可能な農業と農村の創造を目指し、これらに貢献できる人材を育成するため、社会科学の側面、工学的側面からの専門教育により、知識と技術の習得を図ります。「農林・資源経済学講座」では地域社会の発展および農林水産業振興に関する教育と研究を行い、「生物環境情報工学講座」と「地域環境工学講座」では生活環境を豊かにし、そして自然環境と調和する科学技術に関する教育と研究を行っています。



大学院 生物資源科学研究科

生物生命科学専攻 農林生産科学専攻 環境資源科学専攻

大学院は独創性の高い研究者の養成の場であるのみならず、先端領域において能力を発揮するために必要な高い応用力を教育する場としても必須のものとなっています。生物資源科学研究科では、各専攻それぞれに「課題研究コース」、「学術研究コース」、「地域産業育成コース」を設け、各人の志向に応じたカリキュラムの選択を可能にしています。課題研究コースでは多様な高度専門職業人を養成するための、学術研究コースでは連合大学院博士課程への進学など研究者を目指す人材を養成するための、また、地域産業育成コースでは地域産業において指導的役割を果たす人材を養成するための教育プログラムを提供します。また、 Semester制の採用により秋入学を可能にし、社会人や留学生の利便性の向上をはかっています。講義では研究科共通の必修科目として「科学方法論」や「生物資源科学論」を設け、総合科学的な視点を深めるとともに、専攻、コースに応じた研究や演習により、高い独創性と実践力、国際的な対応力を養っています。

詳しくは<http://www.life.shimane-u.ac.jp/>をご覧ください。

法務研究科 山陰法科大学院



地域社会に根ざしながら、 国際的な視野と行動力を備えた法曹の養成

国際化にも対応できる高度の法的思考力と知識を有する優れた法的知性を備えたとともに、人間的魅力に富み、ライフワークとして山陰をはじめとする地域の法化社会化に尽力する専門的ジェネラリストとしての法曹を養成します。

1 養成すべき法曹像(法科大学院の基本理念と教育目的)

「国民の社会生活上の医師」として地域課題を熟知し、地域社会に深く根ざした法曹。東アジアを中心とした各国法事情・国際取引等に精通し、国際社会の発展に貢献できる法曹

2 カリキュラムの基本的考え方

(法科大学院の教員組織とカリキュラムの基本的考え方)

基本的法律知識の体系的・理論的理解とともに、職業法曹としての倫理観を醸成する
実務的課題への実践的取り組み方法を修得させるため、理論を踏まえつつ、実務への架橋を意識した教育
先端応用領域における法的問題解決能力を身に付け、多様かつ地域独自の現代的課題に対応できる能力を磨く



法務研究科

法曹養成専攻

法曹過疎の解消

地域的課題に精通

知的財産管理

環日本海の国際商取引

附属図書館

附属図書館は、学内外の学術情報資源を最大限に利用するための機能を備えた大学の情報・資料センターとして、教育・研究活動を支援しています。



本館
松江キャンパス

本館には図書約75万冊、雑誌約1万誌の資料が所蔵されており、このうち図書約25万冊、雑誌4千誌が開架閲覧室等で利用できます。閲覧室の他、少人数での共同学習に適したグループ閲覧室、情報検索や講習会用に31台のパソコンを設置した情報メディアルーム、ビデオやDVDが視聴できるAV

ルームがあり、資料別には郷土資料室、遺跡資料室、八雲文庫室、貴重資料室及び学術雑誌フロアがあります。学生用図書の整備に力をいれ、学習に必要な新刊書などの充実を図っています。また、学術情報の世界的な流れの中で、約7千タイトルの電子ジャーナルや各種データベース、Webコンテンツ等を提供しています。軽い雑誌を読みながらくつろげるブラウジングコーナーあり、様々な用途に応じた利用ができます。情報メディアルームの他に情報コンセントを備えたインターネットフロアやパーソナルキャレル、無線LANの設備があり、ノートパソコンを接続することにより、図書館資料(紙媒体)とインターネット資源(電子情報)を併用しながらレポート作成や学習ができる環境を提供しています。また、島根県立図書館や松江市立図書館との相互利用協定や、県内の高等教育機関の図書館による島根県大学・高等専門学校図書館協議会の設立を契機に、一般市民の方々への生涯学習支援や地域の高等教育機関の学生・教職員へのサービスなど、地域貢献に努めています。

医学分館
出雲キャンパス



医学分館は、出雲キャンパスのほぼ中央に位置し、キャンパス各棟をめぐる渡り廊下から直接入館できるよう、閲覧室入口は2階にあります。館内には閲覧室の他、パソコンを備えたセミナー室、1階にビデオ室、ブラウジングコーナー及び3階には視聴覚室、自由閲覧室などがあります。学内利用者は、生体認証システムにより24時間入館できます。所蔵資料は、図書約12万冊、学術雑誌約4千誌などで、これらの資料は、学内者はもとより学外者にも公開し、学術情報の提供に寄与しています。この他ビデオテープ、CD-ROMなども所蔵しています。また、医学文献情報データベースや約7千タイトル以上の電子ジャーナルを提供しており、これらは図書館ホームページから利用することができるようになっています。医学分館では、情報収集のスキル向上を目指して、学生、教職員向けに実習を中心とした文献検索説明会を数多く開催しています。



開架図書(本館)



閲覧室(本館)



新着展示コーナー(分館)

学内共同教育研究施設

学内には、各学部や研究科等に所属する研究者が共同して教育・研究にあたる施設として、一連の教育研究施設を設置しています。



生涯学習教育研究センター
当センターは、地域の生涯学習の推進と市民の学習機会の拡充のため地域の生涯学習関連機関・団体と連携を図りながら、地域社会の発展に寄与しています。
<http://www.ercil.shimane-u.ac.jp/index.html>



総合情報処理センター
学内のみならず、地域社会のネットワークの中核としての将来計画を志向しながら情報発信機能を強化することを目指しています。
<http://www.ipc.shimane-u.ac.jp/>



汽水域研究センター
「人間社会とそれを取り巻く自然環境の持続的発展を可能にするための汽水域の保全と利用」を基本理念として、汽水域の環境変動や多様性メカニズムの解明に取り組んでいます。
<http://www.kisuiiki.shimane-u.ac.jp/>



外国語教育センター
外国語教育の計画立案・運営・実施及びその点検評価を組織的に行うほか、外国語教育を通して、地域・社会貢献および国際貢献に寄与することを目指しています。
<http://cfle.shimane-u.ac.jp/>



松江地区



出雲地区

産学連携センター
産学官連携の拠点として大学の総合的窓口機能を担い、民間等との共同研究、受託研究及び科学技術相談への対応、知的財産に関する相談及び企業・民間の技術者・医療技術者への教育等の業務を行っています。
地域産業共同研究部門 地域医学共同研究部門
連携企画推進部門 知的財産創活部門
<http://www.crc.shimane-u.ac.jp/>



総合科学研究支援センター
既存の研究分野の枠を超えた共同利用体制の整備を実現し、生命・環境・ニューマテリアルに関する先端的及び学際的な教育・研究を強力に支援するとともに、その成果を社会の発展のために還元しています。

遺伝子機能解析分野(松江キャンパス) RI実験施設(松江キャンパス)
物質機能解析分野(松江キャンパス) 実験動物分野(出雲キャンパス)
生体情報・RI実験分野(出雲キャンパス)
<http://www.shimane-u.ac.jp/>から「共同利用施設」をクリック



ミュージアム
永年の教育・研究によって収集・蓄積されてきた標本資料類などを整理・保管、調査・研究し、展示公開や情報発信を行っています。
<http://museum.shimane-u.ac.jp/>



国際交流センター
多様な国際交流活動の拠点となり、産業界・行政・市民など地域社会との協働的国際交流・国際教育戦略の発展を推進していきます。
<http://kokusai.shimane-u.ac.jp/>



**島根大学・寧夏大学
国際共同研究所**
研究所を拠点に、条件不利地域の活性化、開発と環境問題、都市と農村の格差問題などを主要なテーマとして共同研究を行い、研究成果をアジアをはじめとする世界に向けて発信することを目指しています。
寧夏大学構内(中国寧夏回族自治区) <http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/index.html>

学内共同利用施設

工作センター
工作機械を効果的に管理し、教育・研究に必要な機器装置などの製作、修理を行っています。学生も実習などで利用できます。



学生生活関係施設



大会館・食堂
学生・教職員が相互交流できる場として、また、書籍・文具及び日用品の販売、食堂等、学業を継続する上で必要なサービスを提供している施設です。



保健管理センター
島根大学の学生・職員が心身ともに健康な生活が送れるよう、また、より健康が増進されるよう専門的立場から支援するサービス部門です。(松江・出雲両キャンパスに設置)



学生寮
現在、建替え計画があり、入寮の募集を中止することがあります。
男子寮(雄翔寮)
TEL.0852-25-0438 定員/200名
女子寮(紫雲寮)
TEL.0852-25-0437 定員/94名
住所/松江市西川津町字深町3371の1



男女共同参画推進室
島根大学の男女共同参画事業・女性研究者支援事業を推進するために、全教職員・学生向けの啓発活動、女性支援カウンセリング、女性研究者のための研究支援などを行っています。
<http://www.ipc.shimane-u.ac.jp/gender/>



**学生センター
(松江キャンパス)**
学内中央部に位置し、学生の修学上の支援・助言等を行っています。また、同センターには、入試センターも設置されています。



教育開発センター
島根大学における学生の学びの質を保障・向上するために、教育システムの構築やFD、それらを支える各種調査、特色ある授業の創出や全学教育プログラムの企画・実施まで様々な学習環境改善活動に携わっています。
<http://cerd.shimane-u.ac.jp/>



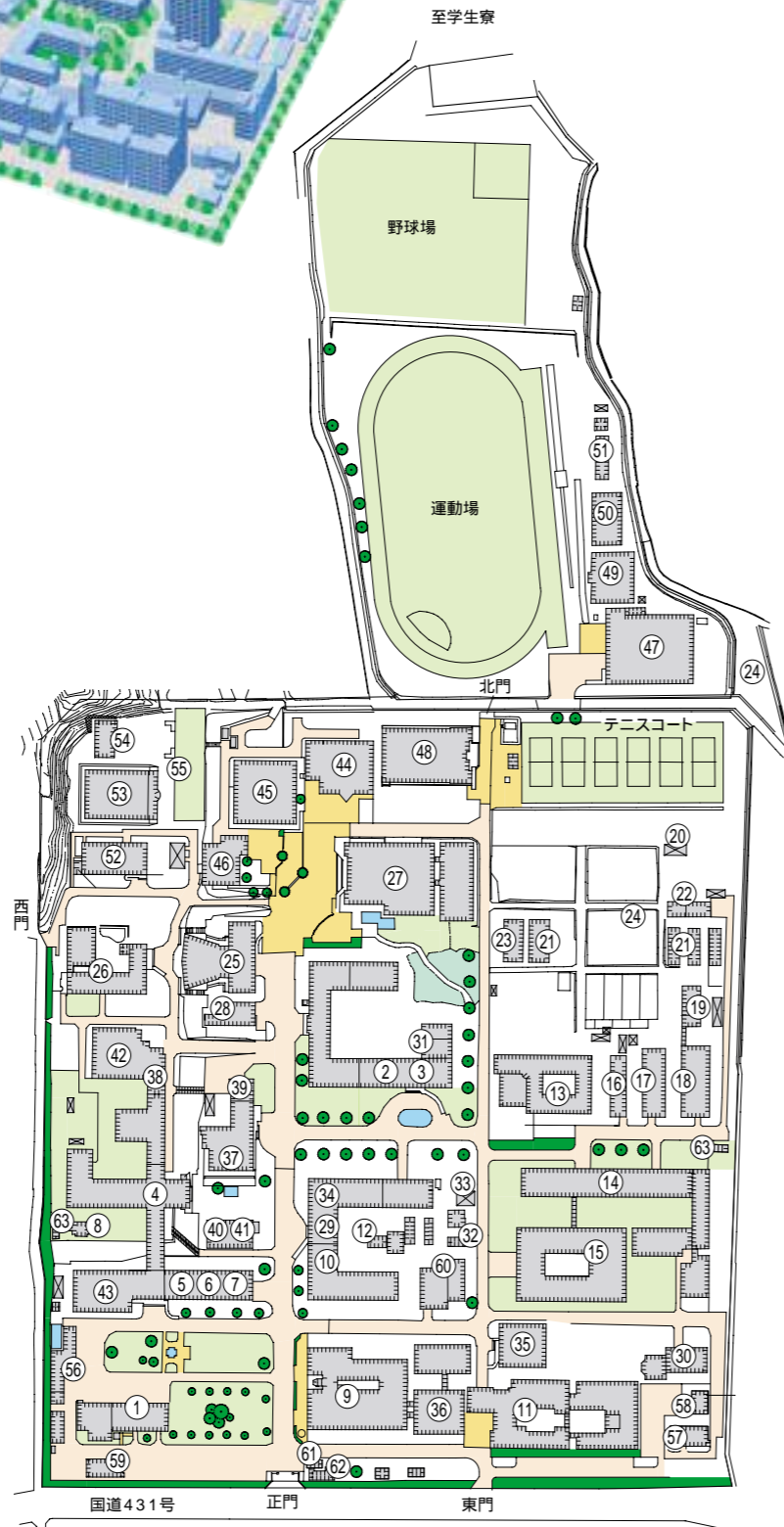
入試センター
島根大学における入学者選抜方法等の改善を図るため、入学試験の企画、広報、実施、評価、改善等を行っています。
<http://nyucen.shimane-u.ac.jp/>



**キャリアセンター
(学生支援センター内)**
学生の職業・進路選択及び就職活動をより円滑に推進するため、全学的立場から支援する組織として就職情報の提供、就職相談、キャリア教育の企画・実施、就職情報の整理・活用を担っています。
<http://career.shimane-u.ac.jp/>

松江キャンパス

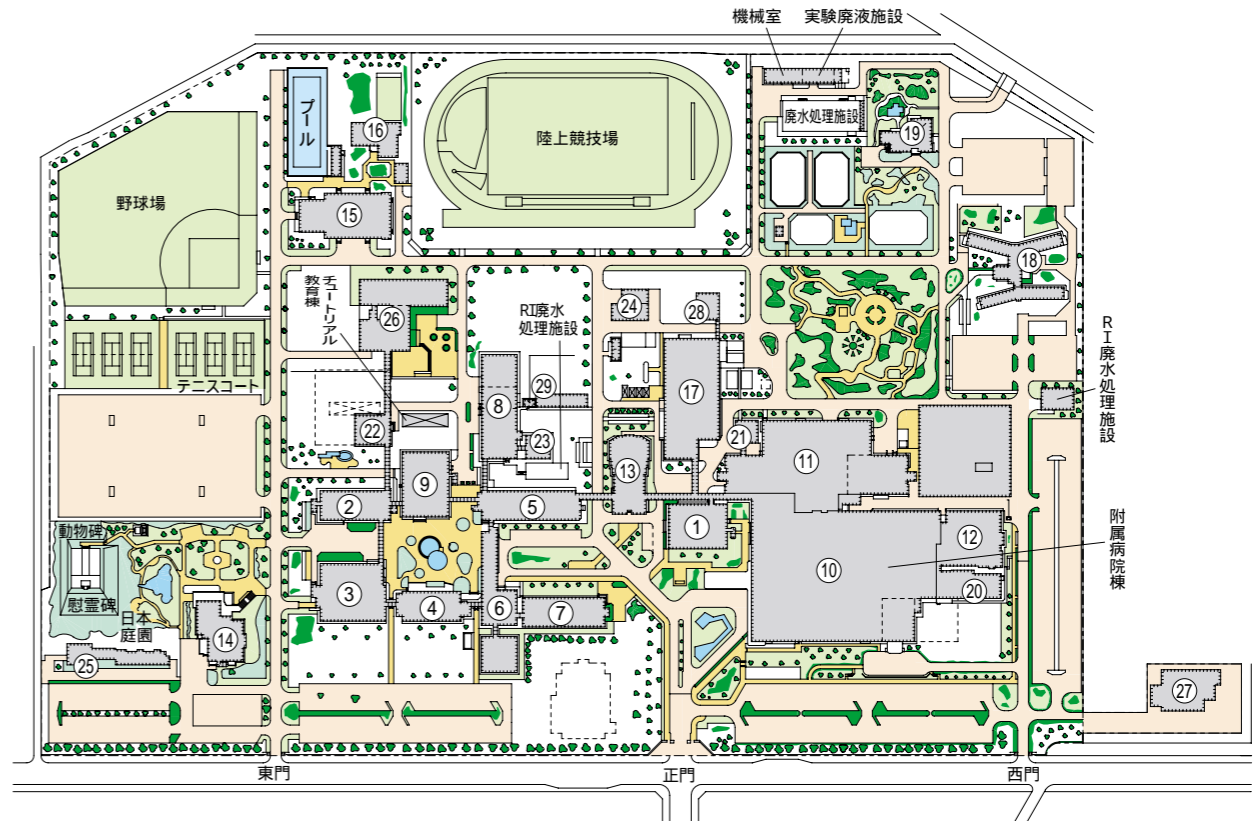
〒690-8504 松江市西川津町1060
TEL.0852-32-6100



- 1 本館
- 2 法文学部棟
- 3 山陰研究センター
- 4 教育学部棟
- 5 教育学部附属教育支援センター
- 6 教育学部附属教師教育研究センター
- 7 教育学部附属FD戦略センター
- 8 光物性実験室
- 9 総合理工学部棟1号館
- 10 総合理工学部棟2号館
- 11 総合理工学部棟3号館
- 12 動物飼育室
- 13 生物資源科学部棟1号館
- 14 生物資源科学部棟2号館
- 15 生物資源科学部棟3号館
- 16 水利実験室
- 17 農業機械実験室
- 18 林産加工場
- 19 製材加工室
- 20 器具庫
- 21 温室
- 22 動物実験飼育室
- 23 ガラス棟
- 24 園場
- 25 教養講義室棟1号館
- 26 教養講義室棟2号館
- 27 附属図書館
- 28 保健管理センター
- 29 生涯学習教育研究センター
- 30 総合情報処理センター
- 31 汽水域研究センター
- 32 ミュージアム
- 33 古代出雲研究施設
- 34 男女共同参画推進室
- 35 遺伝子実験施設
- 36 機器分析センター
- 37 学生センター
- 38 教育開発センター
- 39 入試センター
- 40 学生支援センター
- 41 キャリアセンター
- 42 国際交流センター
- 43 工作センター
- 44 学生会館(松江)
- 45 第1食堂
- 46 第2食堂
- 47 第1体育館
- 48 第2体育館
- 49 トレーニングセンター
- 50 武道館
- 51 体育器具庫
- 52 課外活動共用施設
- 53 プール棟
- 54 弓道場
- 55 アーチェリ-場
- 56 車庫
- 57 環境安全施設
- 58 焼却処理施設
- 59 特高受変電棟
- 60 ボイラー室
- 61 守衛室
- 62 中央監視室
- 63 薬品庫

出雲キャンパス(医学部・医学部附属病院)

〒693-8501 出雲市塩冶町89-1
TEL.0853-23-2111



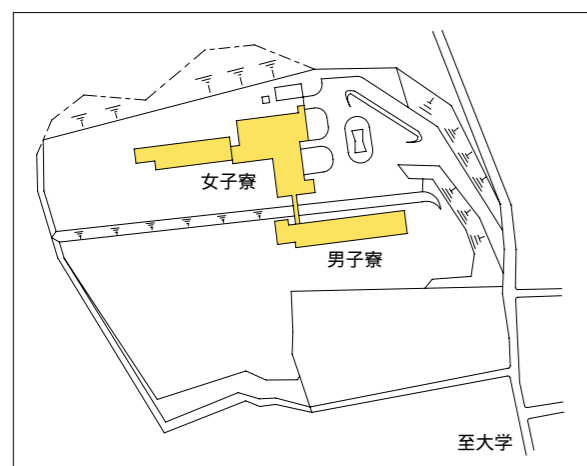
- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1 本館(医学部) | 16 武道館 |
| 2 講義棟 | 17 中央機械室 |
| 3 実習棟 | 18 看護師宿舍 |
| 4 基礎研究棟 | 19 医学部会館 |
| 5 臨床研究棟 | 20 MRI-CT装置棟 |
| 6 共同研究棟 | 21 病歴室 |
| 7 第二研究棟 | 22 第三研究棟 |
| 8 総合科学研究支援センター(出雲地区) | 23 RI研究棟 |
| 9 附属図書館(医学分館) | 24 塵芥焼却炉室 |
| 10 外来・中央診療棟 | 25 国際交流会館(出雲) |
| 11 病棟 | 26 看護学科棟 |
| 12 RI高エネルギー棟 | 27 産学連携センター(出雲) |
| 13 臨床講義棟 | (地域医学共同研究部門) |
| 14 学生会館(出雲) | 28 特高受変電棟 |
| 15 保健管理センター(出雲保健センター) | 29 第三共同研究棟 |



その他の地区

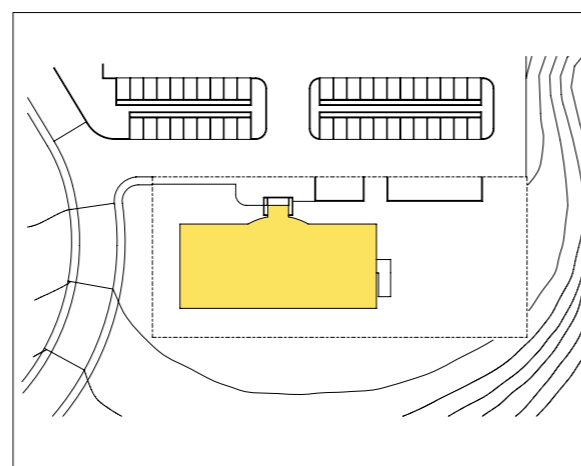
深町地区(学寮)

〒690-0823 松江市西川津町字深町3371-1
TEL.0852-21-3118



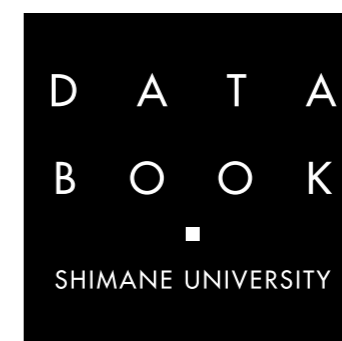
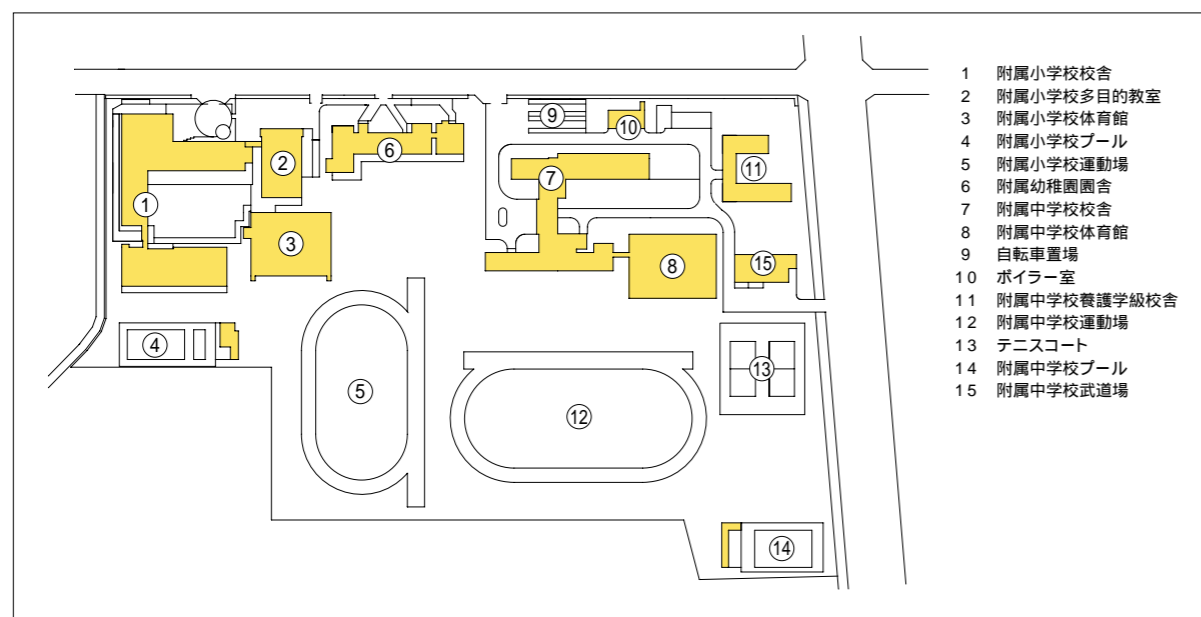
北陵地区(産学連携センター・松江キャンパス)

地域産業共同研究部門・知的財産創活部門・連携企画推進部門
〒690-0816 松江市北陵町2 TEL.0852-60-2290



大輪地区(附属学校)

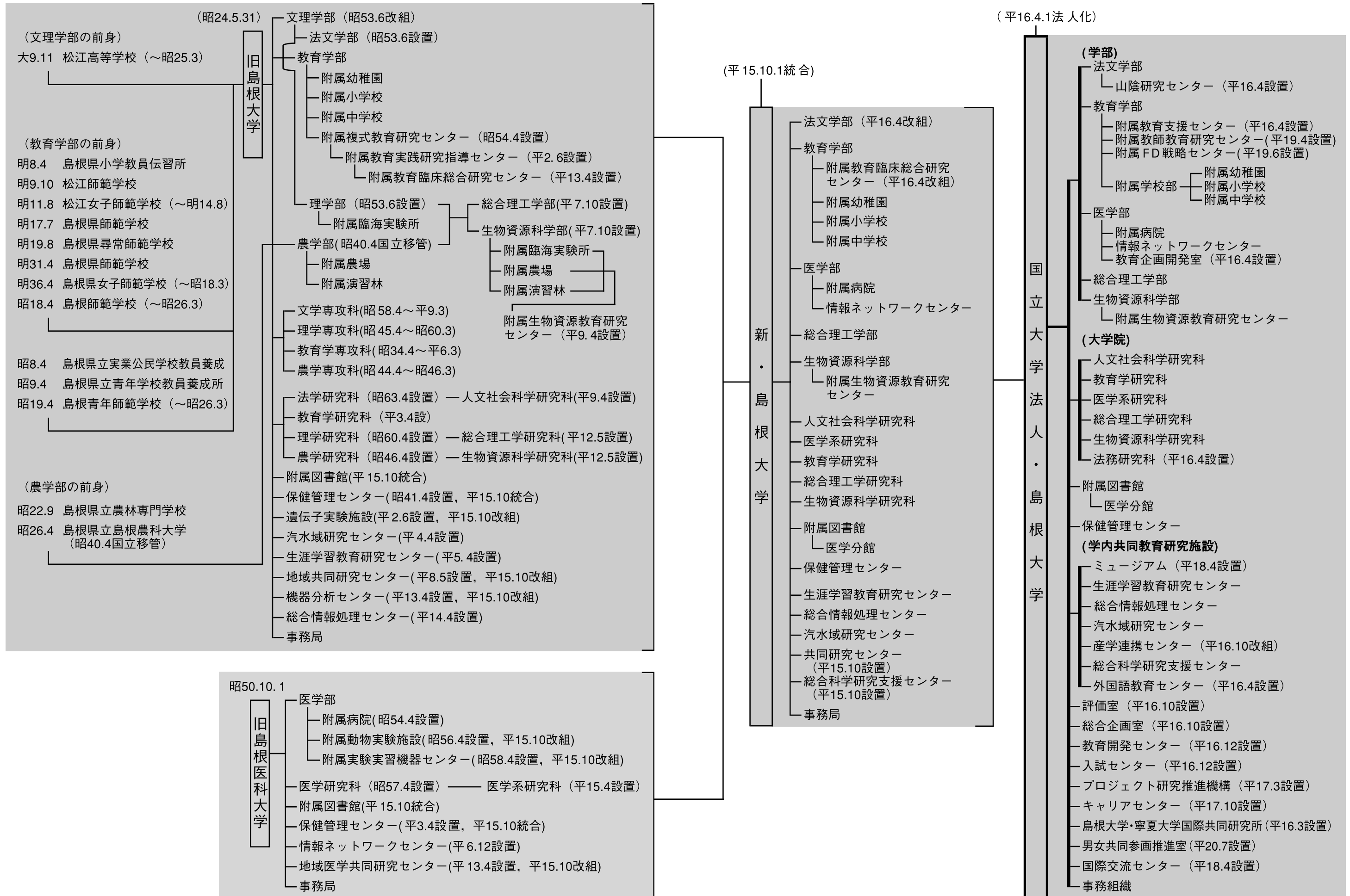
教育学部附属小学校 / 〒690-0882 松江市大輪町416-4 TEL.0852-29-1200
教育学部附属中学校 / 〒690-0824 松江市菅田町167-1 TEL.0852-29-1300
教育学部附属幼稚園 / 〒690-0882 松江市大輪町416-4 TEL.0852-29-1120



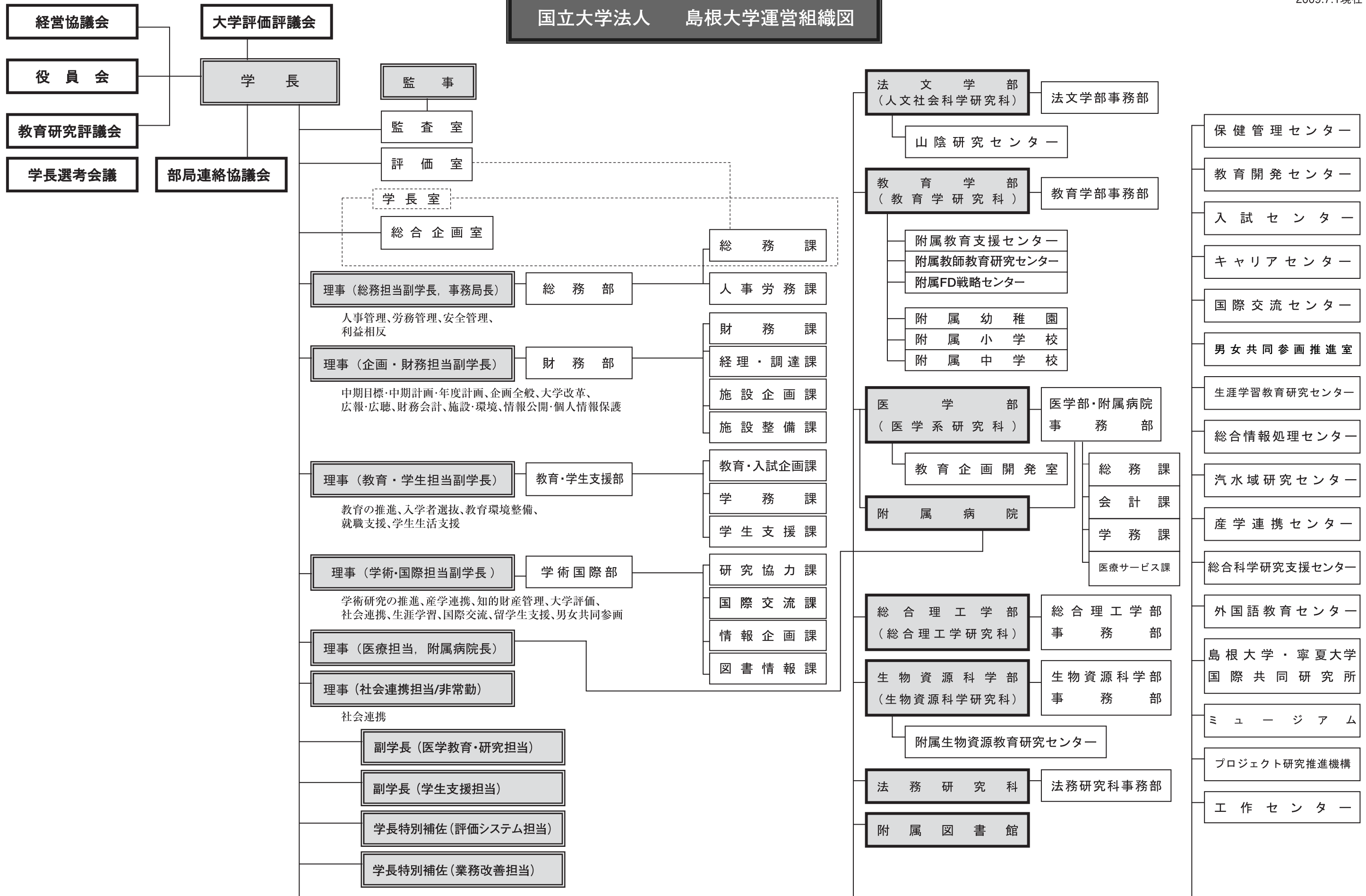
島根大学データブック
2009

部局名	所在地	電話番号
生物資源科学部附属生物資源教育研究センター		
本部	〒690-1102 松江市上本庄町2059	0852-34-0311
森林科学部門 三瓶演習林	〒694-0003 大田市三瓶町多根941-1	0854-86-0011
農業生産科学部門 本庄総合農場	〒690-1102 松江市上本庄町2059	0852-34-0311
" 神西砂丘農場	〒699-0822 出雲市神西沖町字蛇島2473-1	0853-43-2081
海洋生物科学部門 隠岐臨海実験所	〒685-0024 隠岐郡隠岐の島町加茂194	08512-2-1814
汽水域研究センター 中海分室	〒690-1401 松江市八束町江島字南土手附694	0852-76-9007
国際交流会館	〒690-0824 松江市菅田町字ドンド320	0852-25-9530

沿革図



国立大学法人 島根大学運営組織図



学 長			
学 長	山	本	廣 基
理 事			
理事 (企画・財務担当副学長)	宅	和	暁 男
理事 (教育・学生担当副学長)	三	宅	孝 之
理事 (学術・国際担当副学長)	柴	田	均 泰
理事 (医療担当)	小	林	祥 泰
理事 (総務担当副学長)	松	本	次 好
理事 (非常勤) (社会連携担当)	江	口	博 晴
副学長			
副学長 (学生支援担当)	足	立	悦 男
副学長 (医学教育・研究担当)	大	谷	浩
学長特別補佐			
学長特別補佐 (評価システム担当)	野	田	哲 夫
学長特別補佐 (業務改善担当)	細	木	勝 美
監 事			
監事	山	崎	征 爾
監事 (非常勤)	宮	脇	和 秀
事務局長			
事務局長	松	本	次 好
副学長の下に置く部			
総務担当副学長			
総務部			
総務部長	渡	部	博 靖
総務課長	村	上	賀 章
人事労務課長	田	中	巖
企画・財務担当副学長			
財務部			
財務部長	木	村	哲 規
財務課長	今	野	力 一
経理・調達課長	西	田	俊 一
施設企画課長	上	野	浩 一
施設整備課長	浅	沼	智
教育・学生担当副学長			
教育・学生支援部			
教育・学生支援部長	小	西	康 行
教育・入試企画課長	前	田	佳 哲
学務課長	石	橋	公 夫
学生支援課長	加	藤	文 夫
学術・国際担当副学長			
学術国際部			
学術国際部長	花	房	茂 俊
研究協力課長	宍	戸	好 隆
国際交流課長	小	村	陽 悦
情報企画課長	藤	原	恵 吉
図書情報課長	野	村	正 人
監査室			
室長	渡	部	博 靖

学部・大学院			
法文学部・人文社会科学研究科			
学部長・研究科長	田	坂	郁 夫
副学部長	加	藤	克 夫
副学部長	居	石	正 和
副学部長	田	籠	博 孝
事務長	尾	原	良 孝
教育学部・教育学研究科			
学部長・研究科長	高	岡	信 也
副学部長	秋	重	幸 邦
副学部長	伊	藤	豊 彦
副学部長	福	田	哲 之
副学部長	肥	後	功 一
附属教育支援センター長	小	川	巖
附属教師教育研究センター長	高	岡	信 也
附属学校部長	多	々	野 道
附属幼稚園長	宮	本	弘 和
附属小学校長	宮	本	弘 和
附属中学校長	宮	本	弘 和
事務長	三	原	隆
医学部・医学系研究科			
学部長・研究科長	木	下	芳 一
副学部長	大	平	明 弘
副学部長	本	間	良 夫
附属病院長	小	林	祥 泰
副病院長	井	川	幹 夫
副病院長	山	口	清 次
副病院長	秦	美	恵 子
事務部長	日	出	充 一
総務課長	佐	藤	宏 通
会計課長	三	澤	和 男
学務課長	空	俊	雄 郎
医療サービス課長	田	邊	鉄 太
総合理工学部・総合理工学研究科			
学部長・研究科長	竹	内	潤
副学部長	服	部	泰 直
副学部長	久	保	恭 男
事務長	井	上	寿 雄
生物資源科学部・生物資源科学研究科			
学部長・研究科長	谷	口	憲 治
副学部長	澤	嘉	弘 一
副学部長	尾	崎	浩 一
附属生物資源教育研究センター長	小	葉	田 亨
事務長	伊	藤	一 良
法務研究科			
研究科長	藤	田	達 朗
事務長	尾	原	良 孝

附属施設・学内共同教育研究施設等			
附属図書館			
附属図書館長	平	川	正 人
医学分館長	富	岡	治 明
保健管理センター			
所長	蘆	田	耕 一
副所長	野	原	隆 彦
総合企画室			
室 長	宅	和	暁 男
評価室			
室 長	柴	田	均
教育開発センター			
センター長	三	宅	孝 之
副センター長	山	田	剛 史
入試センター			
センター長	三	宅	孝 之
副センター長	田	中	均
キャリアセンター			
センター長	足	立	悦 男
国際交流センター			
センター長	柴	田	均
生涯学習教育研究センター			
センター長	山	下	政 俊
総合情報処理センター			
センター長	野	田	哲 夫
副センター長	鈴	木	貢
汽水域研究センター			
センター長	野	村	律 夫
副センター長	國	井	秀 伸
産学連携センター			
センター長	久	保	衆 伍
副センター長	森	田	栄 伸
総合科学研究支援センター			
センター長	川	向	誠
副センター長	富	岡	治 朗
外国語教育センター			
センター長	廣	瀬	浩 三
副センター長	西	脇	宏
ミュージアム			
館長	松	野	煒 宏
副館長	會	下	和 宏
工作センター			
センター長	山	下	晃 功
プロジェクト研究推進機構			
機構長	柴	田	均
男女共同参画推進室			
室長	澤	ア	ツ 子

経営協議会委員			
学長	山	本	廣 基
理事 (企画・財務担当副学長)	宅	和	暁 男
理事 (教育・学生担当副学長)	三	宅	孝 之
理事 (学術・国際担当副学長)	柴	田	均 泰
理事 (医療担当)	小	林	祥 泰
理事 (総務担当副学長)	松	本	次 好
理事 (非常勤) (社会連携担当)	江	口	博 晴
山陰中央テレビジョン放送 (株)代表取締役	有	澤	寛
前鳥根県立大学長	宇	野	重 昭
一畑電気鉄道 (株) 代表取締役	大	谷	厚 郎
鳥根県病院事業管理者	中	川	正 久
鳥根県弁護士会 弁護士	中	村	寿 夫
キャスター・エッセイスト	福	島	敦 子
松江市長	松	浦	正 敬
前独立行政法人宇宙航空 研究開発機構副理事長	間	宮	馨
教育研究評議会評議員			
学長	山	本	廣 基
理事 (企画・財務担当副学長)	宅	和	暁 男
理事 (教育・学生担当副学長)	三	宅	孝 之
理事 (学術・国際担当副学長)	柴	田	均 泰
理事 (医療担当)	小	林	祥 泰
理事 (総務担当副学長)	松	本	次 好
副学長 (学生支援担当)	足	立	悦 男
副学長 (医学教育・研究担当)	大	谷	浩
法文学部長	田	坂	郁 夫
教育学部長	高	岡	信 也
医学部長	木	下	芳 一
総合理工学部長	竹	内	潤
生物資源科学部長	谷	口	憲 治
法務研究科長	藤	田	達 朗
附属図書館長	平	川	正 人
外国語教育センター長	廣	瀬	浩 三
教授 法文学部	加	藤	克 夫
教授 法文学部	田	籠	博 孝
教授 教育学部	伊	藤	豊 彦
教授 教育学部	肥	後	功 一
教授 医学部	高	田	晃 平
教授 医学部	土	屋	美 加
教授 総合理工学部	横	田	修 一
教授 総合理工学部	土	屋	敏 章
教授 生物資源科学部	荒	瀬	榮 博
教授 生物資源科学部	野	中	資

附属図書館

■蔵書数 2009.5.1現在

区分	図 書(冊)			雑 誌(種)		
	和書	洋書	計	和書	洋書	計
本 館	602,296	150,689	752,985	8,841	2,942	11,783
医学分館	63,121	55,468	118,589	2,221	1,711	3,932

■利用状況 2008年度

区分	入館者数	貸出冊数	図書の貸借		文献複写	
			貸出	借受	受付	依頼
本 館	343,130	46,797	219	472	1,260	4,064
医学分館	175,525	15,071	17	24	2,259	3,203

■閲覧座席

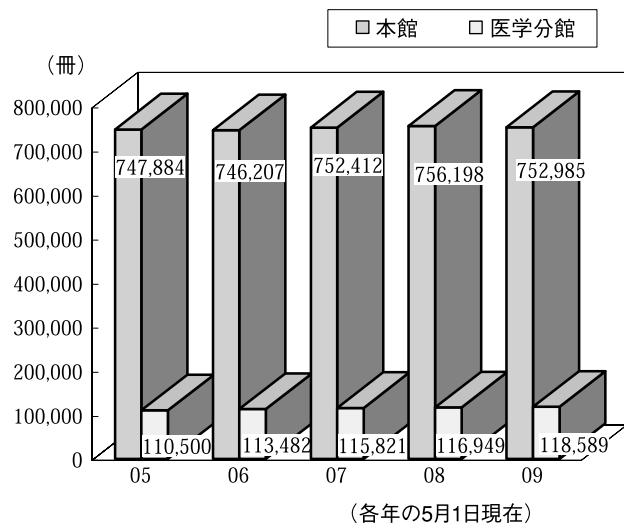
区分	座席数	備 考
本 館	600	開架閲覧室403席, 学習室16席, グループ閲覧室16席, 新聞閲覧コーナー20席, ブラウジングコーナー24席, 職員閲覧室4席, 郷土資料室4席, 遺跡資料室8席, 八雲文庫室10席, AVルーム14席, 情報メディアルーム45席, パソコンコーナー20席, 第2貴重資料室2席, 書庫内14席
医学分館	280	開架閲覧室173席, ビデオ室9席, 自由閲覧室32席, ブラウジングコーナー5席, 視聴覚室42席, セミナー室19席

■開館時間等

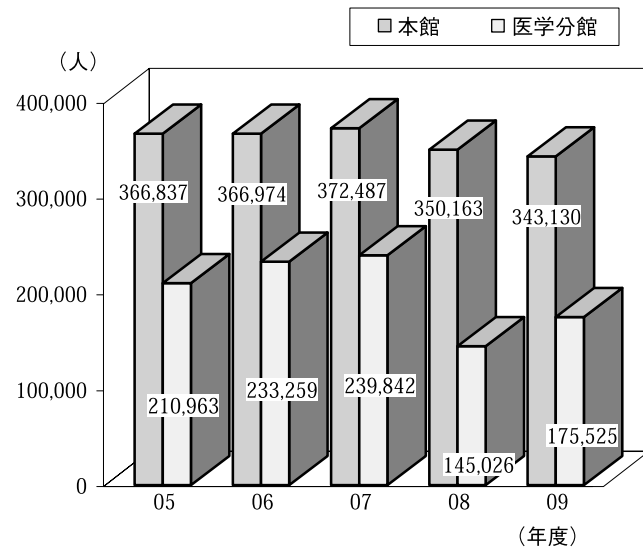
区分	開 館 時 間		休館日
	月曜～金曜	土曜・日曜・定期試験期間中の休日	
本 館	8:30～21:30 (休業期は9:00～19:00まで) または (9:00～17:00まで)	10:00～17:30 (休業期は休館)	休業期の土曜・日曜・休日 年末・年始(12月29日～1月4日) 夏季一斉休業(8月13日～15日) 定例図書整理日(4月を除く偶数月の第4水曜日) 特別整理期間(3月下旬)
区分	開 館 時 間		休館日
医学分館	月曜～金曜	土曜・日曜・休日	

■蔵書数・利用状況の推移

●蔵書数(図書)



●利用状況(入館者数)



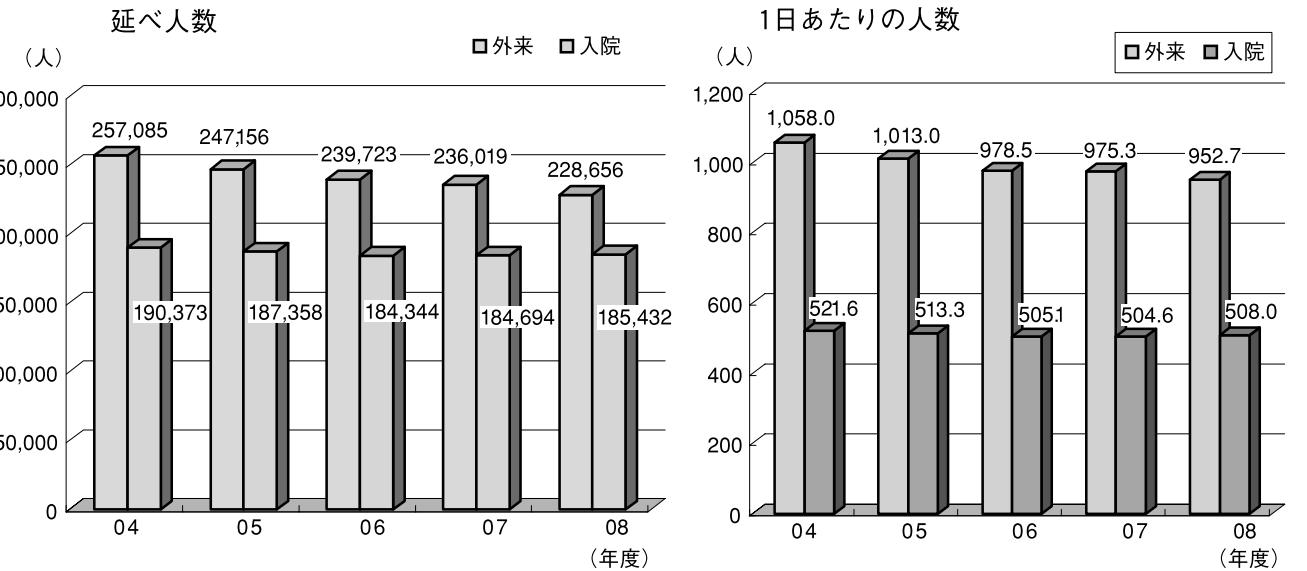
附属病院

■附属病院患者数 (2008.4.1～2009.3.31)

診療科名	病床数	外来患者数		入院患者数	
		延 数	1日平均数	延 数	1日平均数
内分泌代謝内科	20	11,179	46.6	5,246	14.4
血液内科	24	5,058	21.1	10,275	28.2
消化器内科	44	10,043	41.8	10,517	28.8
肝臓内科		7,023	29.3	5,628	15.4
神経内科	33	9,483	39.5	7,869	21.6
膠原病内科		6,384	26.6	3,172	8.7
呼吸器・化学療法内科	8	4,977	20.7	5,232	14.3
腎臓内科	4	2,671	11.1	2,138	5.9
循環器内科	34	8,382	34.9	6,981	19.1
皮膚科	16	13,157	54.8	4,722	12.9
小児科	31	12,260	51.1	9,128	25.0
消化器外科	70	9,574	39.9	18,609	51.0
肝・胆・膵外科		1,768	7.4	4,533	12.4
小児外科		835	3.5	1,129	3.1
乳腺・内分泌外科		2,761	11.5	2,115	5.8
心臓血管外科	15	1,815	7.6	6,246	17.1
呼吸器外科	15	1,141	4.8	4,495	12.3
整形外科	46	16,350	68.1	14,343	39.3
脳神経外科	22	4,623	19.3	6,000	16.4
泌尿器科	22	14,376	59.9	7,645	20.9
精神科神経科	40	14,925	62.2	10,579	29.0
産科	42	5,126	21.4	4,746	13.0
婦人科		8,511	35.5	11,521	31.6
耳鼻咽喉科	30	12,326	51.4	8,603	23.6
眼科	22	16,378	68.2	7,458	20.4
放射線科	7	1,050	4.4	543	1.5
放射線治療科		5,258	21.9	552	1.5
麻酔科	4	6,130	25.5	1,229	3.4
腫瘍センター	4				
救急部	2	7,297	30.4	1,103	3.0
歯科口腔外科	11	7,795	32.5	3,075	8.4
共通	31				
RI・Ra	3			(47)	(0.1)
インキュベーター	5				
NICU	3			(871)	(2.4)
ICU	6			(1,891)	(5.2)
緊急	2				
計	616	228,656	952.7	185,432	508.0

*ICU、NICU、RI・Raの患者数については、再掲で表示しております。

●患者数の推移



学生数

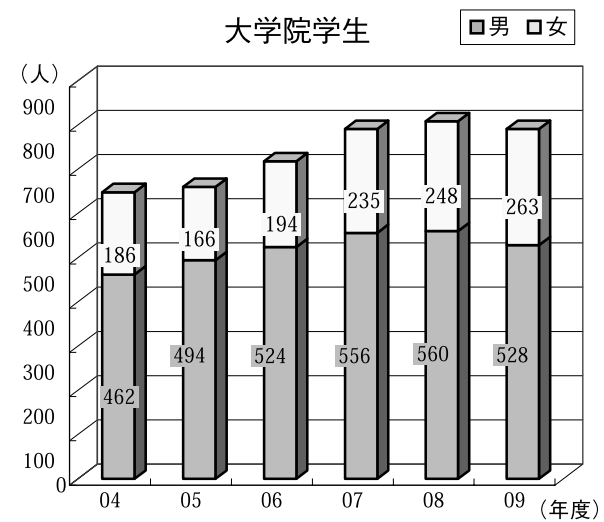
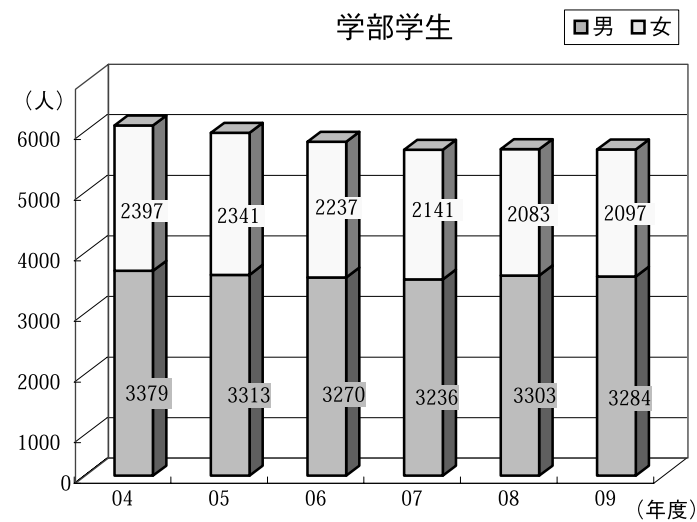
学部

2009.5.1現在

区分	入学定員	収容定員	現員			
			男	女	計	
法文学部	法経学科	90	360	249	148 (1)	397 (1)
	社会文化学科	70	280	143	175 (1)	318 (1)
	言語文化学科	65	260	62 (4)	240 (4)	302 (8)
	法学	-	-	11		11
	社会システム学科	-	-	3		3
	計	225【10】	920	468 (4)	563 (6)	1,031 (10)
教育学部	学校教育課程	170	680	301	406	707
	学校教育教員養成課程	-	-	1		1
	生涯学習課程	-	-	2		2
	生活環境福祉課程	-	-	2		2
	計	170	680	306	406	712
医学部	医学科	95【10】	560	338	236	574
	看護学科	60【10】	260	18	257	275
	計	155【20】	820	356	493	849
総合理工学部	物質科学科	130	520	524	78 (1)	602 (1)
	地球資源環境学科	50	200	153	57 (1)	210 (1)
	数理・情報システム学科	100	400	378 (1)	92	470 (1)
	電子制御システム工学科	80	320	355 (11)	3	358 (11)
	材料プロセス工学科	40	160	158 (5)	37 (1)	195 (6)
	計	400【20】	1,640	1,568 (17)	267 (3)	1,835 (20)
生物資源科学部	生物科学科	30	120	86	52	138
	生態環境科学科	45	180	106 (2)	100 (5)	206 (7)
	生命工学科	40	160	108	70	178
	農業生産学科	30	120	74	68	142
	地域開発科学科	55	220	183 (6)	63 (1)	246 (7)
	計	200【20】	840	557 (8)	353 (6)	910 (14)
合計	1,150【70】	4,900	3,255 (29)	2,082 (15)	5,337 (44)	

注 1.入学定員欄の【 】は、第3年次編入学定員で外数
2.現員欄の()は、外国人留学生で外数

学部学生・大学院学生数の推移



大学院

2009.5.1現在

区分	入学定員	収容定員	現員										
			修士課程 博士前期課程			医学博士課程 博士後期課程			専門職学位課程				
			男	女	計	男	女	計	男	女	計		
人文社会科学 研究科	法経専攻	6	12	1 (2)	1 (6)	2 (8)							
	言語・社会文化専攻	6	12	2 (1)	6 (1)	8 (2)							
	計	12	24	3 (3)	7 (7)	10 (10)							
法務研究科	法曹養成専攻	30	90								60	23	83
	計	30	90								60	23	83
教育学研究科	教育実践開発専攻	20	40	12	18 (1)	30 (1)							
	教育内容開発専攻	20	40	27	11 (4)	38 (4)							
	教科教育専攻			1		1							
計	40	80	40	29 (5)	69 (5)								
医学系研究科	医科学専攻	30	60				41 (7)	17 (7)	58 (14)				
	医科学専攻	15	30	12 (2)	14	26 (2)							
	看護学専攻	12	24	1	30	31							
	形態系専攻		16				17 (4)	7 (3)	24 (7)				
	機能系専攻		30				15 (4)	6 (4)	21 (8)				
	生態系専攻		14				4	4 (1)	8 (1)				
計	57	174	13 (2)	44	57 (2)	77 (15)	34 (15)	111 (30)					
総合理工学 研究科	物質科学専攻	36	72	65	13	78							
	地球資源環境学専攻	14	28	15 (3)	11 (3)	26 (6)							
	数理・情報システム学専攻	28	56	38 (3)	8 (1)	46 (4)							
	電子制御システム工学専攻	22	44	64 (1)	(2)	64 (3)							
	材料プロセス工学専攻	12	24	18	3 (3)	21 (3)							
	マテリアル創成工学専攻	6	18				11 (12)	2 (5)	13 (17)				
	電子機能システム工学専攻	6	18				5 (2)	1	6 (2)				
	計	124	260	200 (7)	35 (9)	235 (16)	16 (14)	3 (5)	19 (19)				
生物資源科学 研究科	生物生命科学専攻	20	40	27	18 (2)	45 (2)							
	農林生産科学専攻	22	44	19 (4)	10 (2)	29 (6)							
	環境資源科学専攻	18	36	23 (1)	11	34 (1)							
	生物科学専攻			1		1							
	生命工科学専攻				1 (2)	1 (2)							
	地域開発科学専攻			3	1	4							
	計	60	120	73 (5)	41 (6)	114 (11)							
合計	323	748	329 (17)	156 (27)	485 (44)	93 (29)	37 (20)	130 (49)	60	23	83		

注) 現員欄の()は、外国人留学生で外数

附属学校児童・生徒・幼児数

2009.5.1現在

附属幼稚園

区分	男	女	合計	
3年課程	4才児		0	
	5才児	10	9	19
2年課程	4才児	18	19	37
	5才児	9	11	20
1年課程	5才児	1		1
合計	38	39	77	

附属中学校

区分	男	女	合計	
1学年	68	70	138	
2学年	70	70	140	
3学年	77	79	156	
特別支援学級	1学年	1		1
	2学年		1	1
	3学年	2	1	3
合計	218	221	439	

附属小学校

区分	男	女	合計
1学年	38	30	68
2学年	31	29	60
3学年	37	46	83
4学年	40	38	78
5学年	32	44	76
6学年	38	40	78
特別支援学級	1組		0
	2組	1	
合計	217	227	444

入学者選抜試験実施状況(2009年度入学)

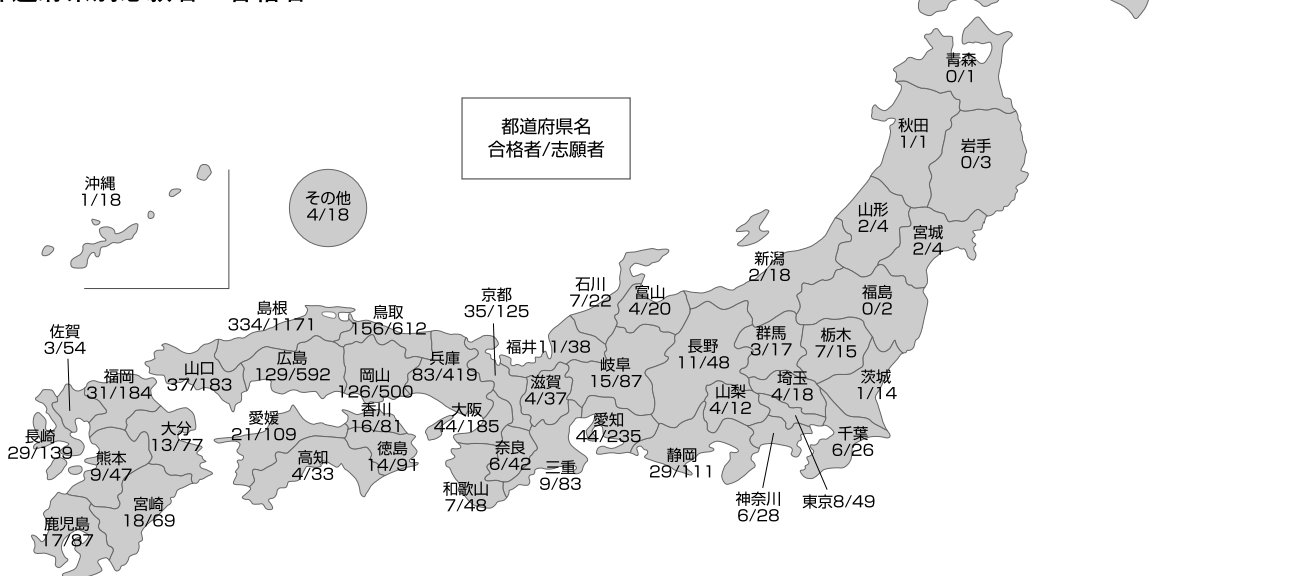
学部

学部・学科・課程	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者	入学者出身別(%)		
						県内	県外	
法文学部	法経学科	90	527	357	108	90	22.5	77.5
	社会文化学科	70	418	301	81	72		
	言語文化学科	65	326	206	81	69		
	計	225	1271	864	270	231		
教育学部	学校教育課程Ⅰ類	170	406	280	146	133	39.8	60.2
	学校教育課程Ⅱ類		76	54	19	18		
	健康・スポーツ教育専攻		32	28	15	13		
	音楽教育専攻		35	14	7	7		
	美術教育専攻		35	14	7	7		
計	170	549	376	187	171			
医学部	医学科	95	504	446	95	95	39.1	60.9
	看護学科	60	624	416	67	61		
	計	155	1128	862	162	156		
総合理工学部	物質科学科	130	621	384	154	137	20.6	79.4
	地球資源環境学科	50	214	143	54	50		
	数理・情報システム学科	100	611	345	110	102		
	電子制御システム工学科	80	516	349	88	81		
	材料プロセス工学科	40	154	146	52	47		
計	400	2116	1367	458	417			
生物資源科学部	生物科学科	30	144	142	35	30	19.4	80.6
	生態環境科学科	45	113	111	50	46		
	生命工学科	40	98	97	52	40		
	農業生産学科	30	114	110	34	31		
	地域開発科学科	55	268	254	70	59		
計	200	737	714	241	206			
合計	1,150	5,801	4,183	1,318	1,181	26	74	

私費外国人留学生特別選抜

学部	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
法文学部	若干名	25	25	5	3
総合理工学部	若干名	19	19	9	7
生物資源科学部	若干名	16	16	6	3
合計	若干名	60	60	20	13

都道府県別志願者・合格者



内訳

(1) 一般選抜

学部・学科・課程	試験日程	募集人員	志願者	受験者	合格者	追加合格者	入学者
法文学部	法経学科	45	217	201	52		79
	社会文化学科	45	182	174	53		66
	言語文化学科	20	207	98	22		64
計	130	522	493	153	0	209	
							前期
教育学部	学校教育課程Ⅰ類	80	206	182	95		98
	学校教育課程Ⅱ類	16	133	31	16		13
	健康・スポーツ教育専攻	8	32	26	8		7
音楽教育専攻	4	32	16	6		4	
							前期
美術教育専攻	4	8	5	2		4	
							前期
計	100	268	231	114	0	122	
医学部	医学科	60	405	348	60		60
	看護学科	37	290	242	43		47
	計	97	695	590	103	0	107
総合理工学部	物質科学科	85	266	235	104		114
	地球資源環境学科	28	83	79	30		38
	数理・情報システム学科	46	143	126	53		66
	電子制御システム工学科	35	251	224	36		46
	材料プロセス工学科	23	66	59	33		33
計	217	809	723	256	0	297	
							前期
生物資源科学部	生物科学科	17	30	29	19	2	22
	生態環境科学科	30	34	32	30		30
	生命工学科	29	60	59	38	2	36
	農業生産学科	17	68	64	21		23
	地域開発科学科	30	171	157	42		36
計	123	363	341	150	4	147	
							前期
合計	869	5082	3467	1019	4	882	

(2) 専門高校・総合学科卒業生選抜

学部・学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
医学部 看護学科	3以内	6	6	2	2
合計	3以内	6	6	2	2

(3) 推薦入学 I

学部・学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者	
法文学部	法経学科	10	39	39	11	11
	社会文化学科	5	28	28	6	6
	言語文化学科	5	23	23	5	5
計	20	90	90	22	22	
総合理工学部	物質科学科	10	16	16	7	7
	地球資源環境学科	7	18	18	7	7
	数理・情報システム学科	24	35	35	25	25
	電子制御システム工学科	15	28	28	18	18
	材料プロセス工学科	12	23	22	14	14
計	68	120	119	71	71	
生物資源科学部	生物科学科	8	20	20	8	8
	生態環境科学科	10	21	21	14	14
	生命工学科	6	5	5	4	4
	農業生産学科	8	19	19	8	8
	地域開発科学科	20	39	39	23	23
計	52	104	104	57	57	
合計	140	314	313	150	150	

(4) 推薦入学Ⅱ

学部・学科		募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
教育学部	学校教育課程Ⅰ類	34	67	67	35	35
	学校教育課程Ⅱ類 健康・スポーツ教育専攻	4	12	12	5	5
	学校教育課程Ⅱ類 音楽教育専攻	8	10	10	6	6
	学校教育課程Ⅱ類 美術教育専攻	2	5	5	3	3
	計	48	94	94	49	49
医学部	医学科	20	68	67	20	20
	看護学科	10	36	36	12	12
	計	30	104	103	32	32
総合工学部	物質科学科	15	36	36	16	16
	数理・情報システム学科	10	43	43	11	11
	電子制御システム工学科	15	37	37	17	17
	計	40	116	116	44	44
合計	118	314	313	125	125	

(5) 地域枠推薦入学

学部・学科		募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
医学部	医学科	10	19	19	10	10
合計		10	19	19	10	10

(6) 緊急医師確保対策枠推薦入試

学部・学科		募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
医学部	医学科	5	17	16	5	5
合計		5	17	16	5	5

(7) A〇入試

学部・学科		募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
総合工学部	地球資源環境学科	5	11	10	6	6
合計		5	11	10	6	6

(8) 社会人特別選抜

学部・学科		募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
法文学部	法学科	若干名	2	2	0	—
	社会文化学科	若干名	0	—	—	—
	言語文化学科	若干名	0	—	—	—
合計	若干名	2	2	0	—	

(9) 帰国子女特別選抜

学部		募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
法文学部		若干名	1	1	0	—
合計		若干名	1	1	0	—

■第3年次編入学

学部・学科		区分	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
文学部	法経学科	一般	10	28	23	5	5
		一般		8	7	4	4
		一般		28	26	9	9
	計	10		64	56	18	18
医学部	医学科	学士入学	10	230	198	13	10
		一般	10	19	18	14	10
	看護科	一般	20	249	216	27	20
総合工学部	物質科学科	推薦	20	0	—	—	—
		一般		3	3	1	1
	地球資源環境学科	一般		0	—	—	—
	数理・情報システム学科	推薦		1	1	0	—
		一般		22	21	11	9
	電子制御システム工学科	推薦		2	2	1	1
		一般		10	8	5	4
材料プロセス工学科	推薦	2	2	2	2		
	一般	4	4	4	3		
計		20	44	41	24	20	
生物資源科学部	生物科学科	推薦	20	2	2	1	1
		一般		6	5	3	3
	生態環境科学科	推薦		3	3	3	3
		一般		6	3	1	0
	生命工学科	推薦		1	1	1	1
		一般		1	1	0	—
	農業生産学科	推薦		7	7	6	6
		一般		7	7	2	1
地域開発科学科	推薦	3	3	3	3		
	一般	2	2	1	1		
計		20	38	34	21	19	
合計		70	395	347	90	77	

■大学院

区 分		入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者
人文社会科学部 研究科	法経専攻	6	16	16	8	6
	言語・社会文化専攻	6	15	14	10	9
	計	12	31	30	18	15
教育学研究科	学校教育専攻	20	26	25	21	17
	教科教育専攻	20	30	30	30	28
	計	40	56	55	51	45
医学系研究科 (博士課程)	医科学専攻	30	34	33	33	33
	計	30	34	33	33	33
医学系研究科 (修士課程)	医科学専攻	15	15	15	14	14
	看護学専攻	12	13	13	13	13
計	27	28	28	27	27	
総合工学部 研究科 (博士後期課程)	マテリアル創成工学専攻	6	4	4	4	4
	電子機能システム工学専攻	6	3	3	3	3
	計	12	7	7	7	7
総合工学部 研究科 (博士前期課程)	物質科学専攻	36	58	51	44	39
	地球資源環境学専攻	14	16	15	15	12
	数理・情報システム学専攻	28	30	30	27	27
	電子制御システム工学専攻	22	33	32	32	32
	材料プロセス工学専攻	12	12	12	12	9
計	112	149	140	130	119	
生物資源科学 研究科	生物生命科学専攻	20	31	30	30	25
	農林生産科学専攻	22	24	23	23	19
	環境資源科学専攻	18	15	14	14	10
	計	60	70	67	67	54
法務研究科	法曹養成専攻	30	49	47	27	18
合計		323	424	407	360	318

■2009年度入学者選抜試験日程（予定）

区 分	募集要項発表	願書受付期間	試験実施日	合格発表
帰国子女（秋季入学）（生物資源科学部）	4月10日	6月15日～6月19日	7月11日	7月17日
社会人入試（法文学部）	7月下旬	11月2日～11月6日	11月28日	12月3日
推薦入試Ⅰ（法文学部）				
推薦入試Ⅰ（教育学部）				
推薦入試Ⅰ（総合工学部、生物資源科学部）			11月26日～11月27日	
推薦入試Ⅱ（医学部）			12月5日	
推薦入試Ⅱ（総合工学部）	1月21日～1月27日	2月5日	2月9日	
地域枠推薦入試（医学部医学科） 緊急医師確保対策枠推薦入試（医学部医学科）	4月27日	11月2日～11月6日	12月5日～12月6日	
私費外国人留学生 （法文学部、総合工学部、生物資源科学部）	7月下旬	12月4日～12月10日	書類選考	1月20日
帰国子女（法文学部）		11月2日～11月6日	11月28日	12月3日
一般入試	10月中旬	1月25日～2月3日	2月25日～2月26日	3月8日
後期日程（全学部）			3月12日	3月22日
専門高校・総合学科卒業生入試（医学部看護学科）			2月25日～2月26日	3月8日
A〇入試（教育学部）	6月上旬	7月24日～7月31日	9月26日	2月9日
A〇入試（総合工学部 地球資源環境学科）	5月18日	7月17日～7月24日	9月28日～9月29日	10月9日

卒業生数・修了者数

■学部 2009.3.31現在

区 分		2008年度 卒 業 者	累 計
法 文 学 部	法 經 学 科	77	155
	社 会 文 化 学 科	69	127
	言 語 文 化 学 科	88	747
	法 学 科	8	3,978
	社 会 シ ス テ ム 学 科	4	760
	文 学 科	-	1,586
	計	246	7,353
教 育 学 部	学 校 教 育 課 程	161	339
	学 校 教 育 教 員 養 成 課 程	2	1,092
	生 涯 学 習 課 程	-	525
	生 活 環 境 福 祉 課 程	2	173
	小 学 校 教 員 養 成 課 程	-	4,790
	中 学 校 教 員 養 成 課 程	-	2,546
	養 護 学 校 教 員 養 成 課 程	-	570
	幼 稚 園 教 員 養 成 課 程	-	574
	特 別 教 科 (音 楽) 校 教 員 養 成 課 程	-	1,152
	特 別 教 科 (保 健 体 育) 校 教 員 養 成 課 程	-	856
	社 会 教 育 文 化 課 程	-	398
	計	165	13,015
医 学 部	医 学 科	107	2,692
	看 護 学 科	62	466
	計	169	3,158
総 合 理 工 学 部	物 質 科 学 科	125	1,148
	地 球 資 源 環 境 学 科	44	425
	数 理 ・ 情 報 シ ス テ ム 学 科	92	880
	電 子 制 御 シ ス テ ム 工 学 科	80	681
	材 料 プ ロ セ ス 工 学 科	39	422
計	380	3,556	
生 物 資 源 科 学 部	生 物 科 学 科	30	297
	生 態 環 境 科 学 科	48	504
	生 命 工 学 科	43	408
	農 業 生 産 学 科	39	330
	地 域 開 発 科 学 科	51	559
計	211	2,098	
文 理 学 部		-	3,950
理 学 部		-	3,510
農 学 部		-	5,141
合 計		1,171	41,781

■専攻科他

区 分	2008年度 修 了 者	累 計
文 学 専 攻 科	-	18
理 学 専 攻 科	-	45
教 育 専 攻 科	-	232
農 学 専 攻 科	-	11
合 計	-	306
教 育 学 部 教 員 養 成 2年 課 程	-	1,106

■大学院 2009.3.31現在

区 分		2008年度修了者 (単位取得退学を含む)	累 計
人 文 社 会 科 学 研 究 科	法 經 専 攻	5	20
	言 語 ・ 社 会 文 化 専 攻	8	28
	法 学 専 攻	-	56
	社 会 シ ス テ ム 専 攻	-	43
	言 語 文 化 専 攻	-	32
	計	13	179
教 育 学 研 究 科	学 校 教 育 専 攻	22	187
	教 科 教 育 専 攻	20	411
	教 育 実 践 開 発 専 攻	1	1
	教 育 内 容 開 発 専 攻	4	4
計	47	603	
医 学 系 研 究 科	形 態 系 専 攻	8	134
	機 能 系 専 攻	12	152
	生 態 系 専 攻	4	47
	計	24	333
	医 科 学 専 攻	11	23
	看 護 学 専 攻	9	42
計	20	65	
総 合 理 工 学 研 究 科	マ テ リ ア ル 創 生 工 学 専 攻	4	31
	電 子 機 能 シ ス テ ム 工 学 専 攻	2	19
	計	6	50
	物 質 科 学 専 攻	49	321
	地 球 資 源 環 境 学 専 攻	18	130
	数 理 ・ 情 報 シ ス テ ム 学 専 攻	23	179
電 子 制 御 シ ス テ ム 工 学 専 攻	27	199	
材 料 プ ロ セ ス 工 学 専 攻	8	92	
計	125	921	
生 物 資 源 科 学 研 究 科	生 物 科 学 専 攻	8	70
	生 態 環 境 科 学 専 攻	20	133
	生 命 工 学 専 攻	13	108
	農 業 生 産 学 専 攻	10	66
	地 域 開 発 科 学 専 攻	19	65
計	70	442	
法 務 研 究 科	法 曹 養 成 専 攻	15	62
計	15	62	
理 学 研 究 科		-	616
農 学 研 究 科		-	739
法 学 研 究 科		-	80
合 計		320	4,090

博士の学位授与者数

2009.3.31現在

区 分	課程博士		論文博士	
	2008年度	累 計	2008年度	累 計
医 学 系 研 究 科	14	309	14	273
総 合 理 工 学 研 究 科	6	47	1	4

卒業・修了後の状況

学部

2009.5.1現在

区分	法文学部	教育学部	医学部	総合理工学部	生物資源科学部	計
卒業	246	165	169	380	211	1,171
進学	21	25		148	66	260
無業者・不詳	31	8	7	21	23	90
就職	194	132	61	211	122	720
臨床研修医			101			101
産別						
農業, 林業				1	6	7
漁業						
鉱業, 採石業, 砂利採取業						
建設業	3	1		24	3	31
製造業	22	5		72	32	131
電気・ガス・熱供給・水道業				2	1	3
情報通信業	17			40	8	65
運輸業, 郵便業	4	2		5		11
卸売・小売業	18	9		12	25	64
金融・保険業	31	12		3	3	49
不動産業, 物品賃貸業	2				1	3
学術研究, 専門・技術サービス業	5			5	2	12
宿泊業, 飲食サービス業	3			1	1	5
生活関連サービス業, 娯楽業	8	1		6	1	16
教育(学校教育)	12	84	2	12	5	115
学習支援	4	7		2	2	15
医療・福祉業	8	5	59		4	76
複合サービス業	9	1		3	10	23
その他のサービス業	3	2		8	5	18
公務(国家)	11			5	1	17
公務(地方)	27	3		7	9	46
その他	7			3	3	13

大学院

2009.5.1現在

区分	人文社会科学研究科	教育学研究科	医学系研究科		総合理工学研究科		生物資源科学研究科	法務研究科	計
			修士	博士一貫	博士前期	博士後期			
修了	13	47	20	24	125	6	70	15	320
進学	1	1	2		8		14		26
無業者・不詳	4	5	2	1	5		6	15	38
就職	8	41	16	23	112	6	50		256
産別									
農業, 林業							1		1
漁業									
鉱業, 採石業, 砂利採取業									
建設業	1				2		4		7
製造業		1	3	1	65	2	14		86
電気・ガス・熱供給・水道業					1				1
情報通信業	3				17		4		24
運輸業, 郵便業									
卸売・小売業	1				2		4		7
金融・保険業									
不動産業, 物品賃貸業					2				2
学術研究, 専門・技術サービス業	1	1			11	2	7		22
宿泊業, 飲食サービス業	1						1		2
生活関連サービス業, 娯楽業									
教育(学校教育)		26	3	11	7	1	1		49
学習支援		1			3	1	1		6
医療・福祉業	1	4	9	11					25
複合サービス業							4		4
その他のサービス業			1		1		2		4
公務(国家)							2		2
公務(地方)		7					4		11
その他		1			1		1		3

卒業後の主な就職先・進学先

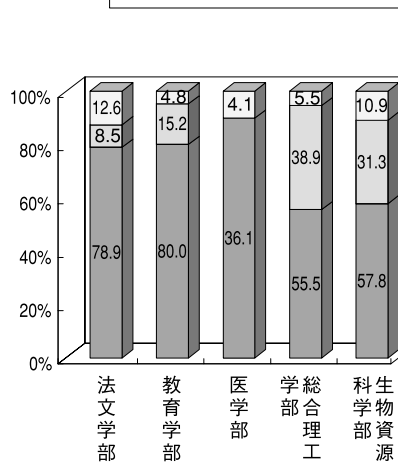
2009.5.1現在

区分	就職先
法文学部	<p>【製造】三菱製鋼、トヨタ紡織、住友スリーエム【金融】ゆうちょ銀行、商工組合中央金庫、山口銀行、長崎銀行、中国労働金庫、日本生命保険相互、朝日生命保険相互、野村証券【運輸・旅行】西日本旅客鉄道、JTB中国・四国、山九【卸・小売・サービス】博多大丸、大黒天物産、ヨドバシカメラ、大西グループ、コメリ、青山商事、日本食研、ヤマト運輸【マスコミ】山陰中央新報社、日本海テレビジョン放送【情報・システム】大塚商会、トランスコスモス【その他】郵便局、郵便事業【公務員・他】国家公務員、地方公務員、教員、国立大学法人</p> <p>【地元企業】山陰合同銀行、島根銀行、鳥取銀行、島根県信用保証協会、出雲村田製作所、寿製菓、島根トヨタグループ、ジュンテンドー、出雲商工会議所、島根富士通、JA雲南、プロビズモ、今井書店</p>
教育学部	<p>【教員】小学校教員、中学校教員、高等学校教員、幼稚園教員、特別支援学校教員【その他】ヤマハ音楽振興会、山陰合同銀行、出雲村田製作所、野村証券、大和証券、東京海上日動火災保険、大分銀行、山口銀行、三井住友海上火災、イズミ、小西医療機器、アルプス電気、福山通運、広島トヨタ自動車、生協ひろしま、フタバ図書、進学会、出雲芸術アカデミー【公務】島根県職員、兵庫県警察、島根県警察、米子市職員、島根県立病院、鳥取西部農業協同組合</p>
医学部	<p>【医師・看護師等】島根大学医学部附属病院、島根県立中央病院、島根県職員、国立病院機構松江病院、松江市立病院、松江赤十字病院、東京大学医学部附属病院、慶應義塾大学医学部附属病院、京都大学医学部附属病院、九州大学医学部附属病院、広島大学医学部附属病院、岡山大学医学部附属病院、大阪市立大学医学部附属病院、成田赤十字病院、神戸赤十字病院、京都第一赤十字病院、広島県立病院</p>
総合理工学部	<p>【製造】イビデン、王子製紙、北川鉄工所、協和発酵キリングroup、クボタ、コニカミノルタオプト、シャープ、住友電気工業、住友ゴム工業、セイコーエプソン、ダイハツ工業、ツネイシホールディングス、東芝、トヨタ自動車、日亜化学工業、三菱重工業、三菱自動車工業、富士重工、ミネベア、ヤマハ発動機【その他】NTTドコモ中国、NTT西日本、国際航空シー・イー・シー、JR九州、JR西日本、三菱電機ビルテクノサービス、三菱電機インフォメーションシステムズ、大日本印刷、日本電産、日本工営、日本ペイント、日立マクセル、広島ガス、北陸電力、楽天【公務】国土地理院(国家I種)、地方公務員、教員</p> <p>【地元企業】出雲村田製作所、島根三洋電機、島根電工、島根富士通、テクノプロジェクト、三菱農機、ミック、守谷刃物研究所、山陰中央テレビジョン放送、JA共済連島根</p>
生物資源科学部	<p>【食品】伊藤ハム、山崎製パン、日本ハム、森永北陸乳業、旭食品、アンデルセングループ【化学】旭化成グループ、イカリ消毒、大倉工業、大塚化学【機械】アイシン・エンジニアリング、サタケグループ、ヤンマー農機、小西医療器、INAX、JFE炉材【卸・小売】大黒天物産、イオン、イズミ、コメリ、カワニシグループ、コスモス薬品【その他】郵便局、大同生命保険、インテック、ミサワホーム中国、日本生活協同組合連合会【農協】JAあきた白神、全国酪農協同組合連合会【公務・他】地方公務員、教員、国立大学法人、警視庁、自衛隊</p> <p>【地元企業】山陰合同銀行、スター精機、JAいずも、JAやすぎ、島根トヨタグループ、島根CSK、島根県農業協同組合連合会、ジュンテンドー、大山ハム、フジキコーポレーション、ホシザキ中国、丸京製菓、ミック</p>

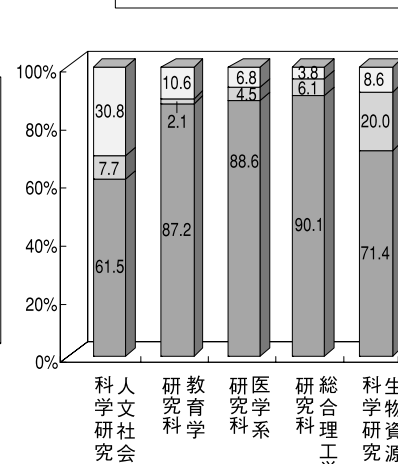
*順不同。大学院の就職先含む

卒業後の状況(2009.5.1)

◆学部

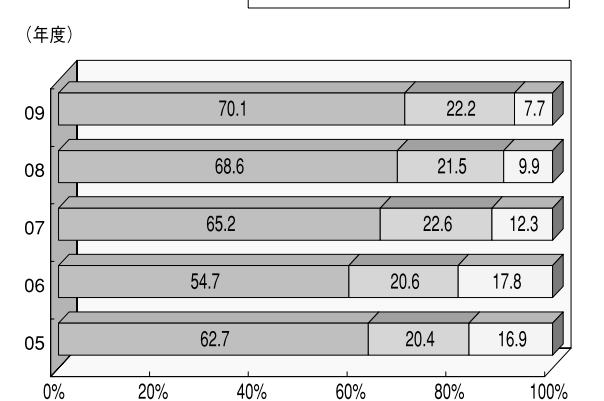


◆大学院



卒業後の状況の推移(学部)

□就職者 □進学者 □無業者・不詳

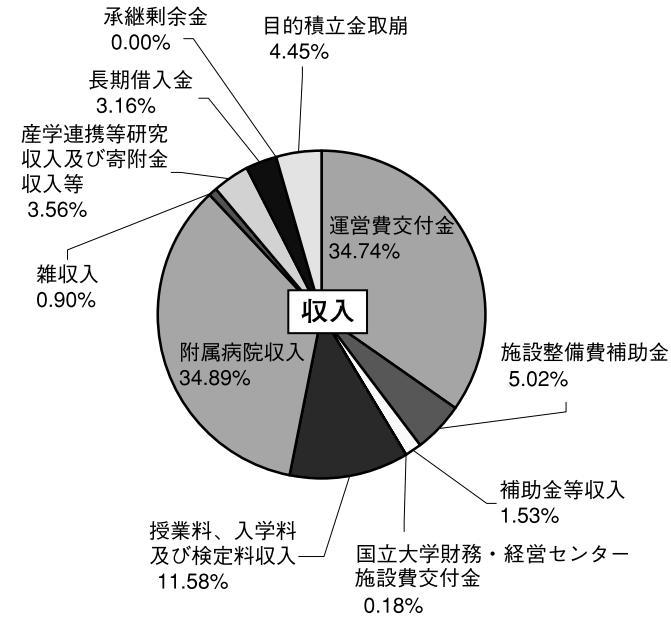


(注) 1. 各年度の5月1日現在のデータである。
2. 法務研究科は含まず(卒業者が少ないため)。

収入・支出決算額 (2008年度)

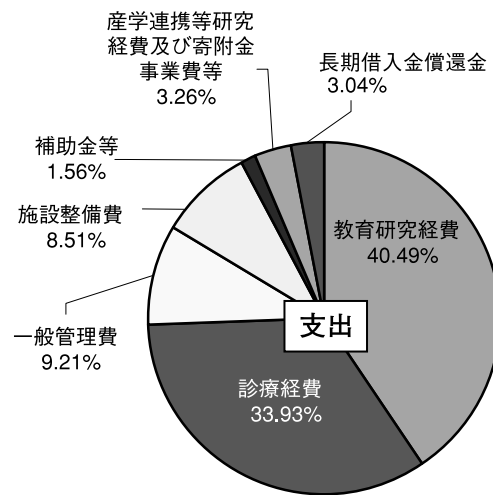
収入

区分	金額 (百万円)
運営費交付金	10,888
施設整備費補助金	1,572
補助金等収入	479
国立大学財務・経営センター施設費交付金	56
授業料、入学金及び検定料収入	3,628
附属病院収入	10,935
雑収入	281
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	1,115
長期借入金	991
承継剰余金	0
目的積立金取崩	1,393
合計	31,338

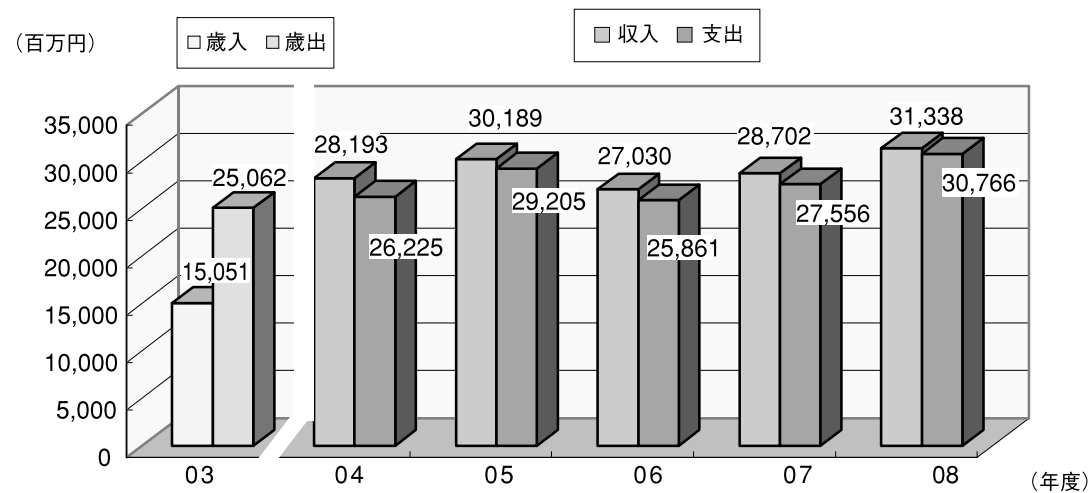


支出

区分	金額 (百万円)
教育研究経費	12,456
診療経費	10,440
一般管理費	2,834
施設整備費	2,619
補助金等	479
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	1,003
長期借入金償還金	935
合計	30,766



収入・支出 (歳入・歳出) の推移



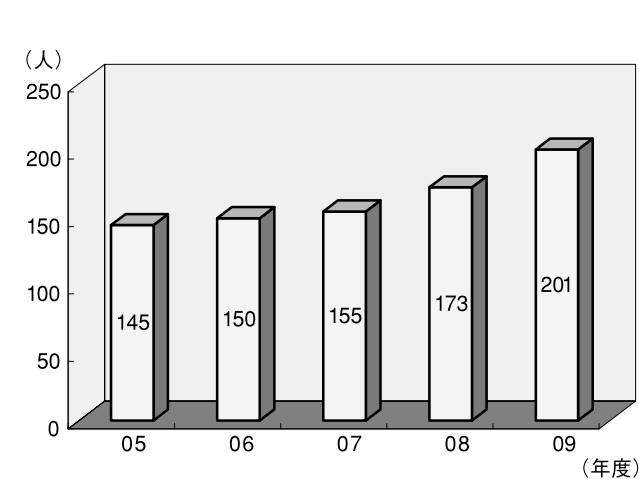
(注) 2003年度以前については、旧島根大学と旧島根医科大学のものを合計したものである。

外国人留学生の受入状況

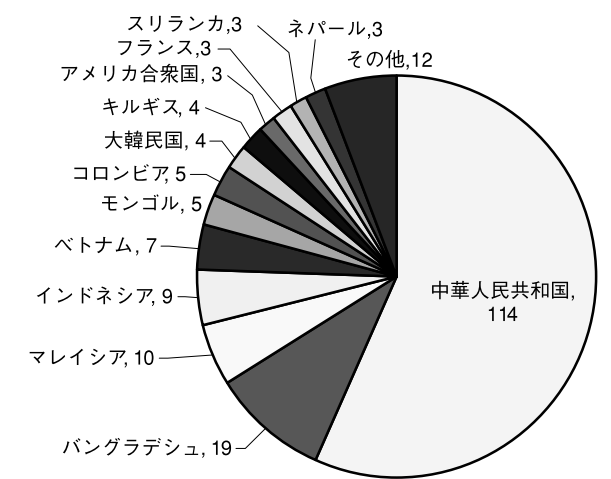
2009.5.1現在

国籍	法文学部・人文社会科学研究科			教育学部・教育学研究科			医学部・医学系研究科			総合理工学部・総合理工学研究科			生物資源科学部・生物資源科学研究科			法務研究科	連鳥取大学大学院研究科	計		
	学部学生	大学院学生	研究生等	学部学生	大学院学生	研究生等	学部学生	大学院学生	研究生等	学部学生	大学院学生	研究生等	学部学生	大学院学生	研究生等			学部学生	大学院学生	研究生等
中華人民共和国	6	10	19			5		16	1	9	8	7	10	8	4		11	25	58	31
バングラデシュ								7			5			2			5		19	
マレーシア	1									8	1							9	1	
インドネシア			1					1			5						2		8	1
ベトナム										3			4					7		
モンゴル								4			1								5	
コロンビア											4						1		5	
大韓民国	1		2									4					1	1	1	2
キルギス												4							4	
アメリカ合衆国						3														3
フランス						3														3
スリランカ												3								3
ネパール			1								1		1						2	1
ケニア																2			2	
ミャンマー						1		1											1	1
インド											1								1	
エジプト											1								1	
カザフスタン	1																	1		
コスタリカ								1											1	
コンゴ民主共和国								1											1	
タイ																1			1	
メキシコ												1							1	
台湾			1																1	
小計	10	10	29			5	1	31	1	20	35	7	14	11	4		23	44	115	42
総計			49			6		32		62	29		29				23		201	

留学生数の推移



留学生の国籍内訳

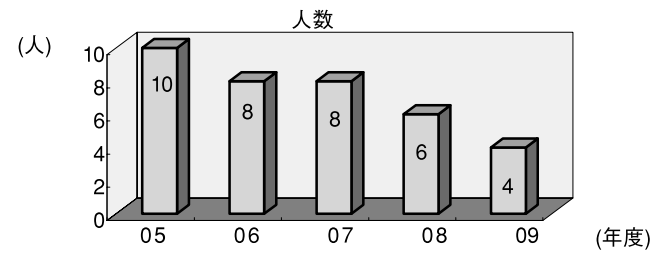


外国への留学状況

2009.3.1現在

学部等	法文学部	教育学部	医学部	総合理工学部	生物資源科学部	計
国名						
アメリカ合衆国	2	0	0	0	1	3
フランス	1	0	0	0	0	1
中華人民共和国	0	0	0	0	0	0
ドイツ	0	0	0	0	0	0
計	3	0	0	0	1	4

●留学状況



外国人研究者の受入状況

2008年度

受入部局	法文学部	教育学部	医学部	総合理工学部	生物資源科学部	汽水域研究センター	合計
国籍							
アメリカ合衆国						1	1
インドネシア				1	1		2
エジプト			1				1
タンザニア					1		1
中華人民共和国	1	1	2		1		5
ドイツ				1			1
バングラデシュ			3				3
フィリピン					1		1
ブラジル					1		1
ミャンマー			1				1
合計	1	1	7	2	5	1	17

奨学生数

2009.3.1現在

区分	学生数	日本学生支援機構			比率	
		一種	二種・きぼう21	計		
法文学部	1,021	211	300	511	50.0	
教育学部	713	133	210	343	48.1	
医学部	844	125	237	362	42.9	
総合理工学部	1,797	305	565	870	48.4	
生物資源科学部	901	155	266	421	46.7	
計	5,276	929	1,578	2,507	47.5	
人文社会科学部	11	2	2	4	36.4	
教育学部	71	14	7	21	29.6	
医学系研究科	博士課程	107	0	0	0.0	
	修士課程	51	5	2	13.7	
総合理工学研究科	博士前期課程	238	90	25	115	48.3
	博士後期課程	21	6	0	6	28.6
生物資源科学研究科	122	53	18	71	58.2	
法務研究科	86	29	21	50	58.1	
計	707	199	75	274	38.8	
合計	5,983	1,128	1,653	2,781	46.5	

定期刊行文献

●学術雑誌

発行部局等名	文献誌名	編集	発行回数(年)
法文学部	島根大学法文学部紀要法経学科・法務研究科篇〔島大法学〕	法文学部法経学科・法務研究科	4
	島根大学法文学部紀要法経学科篇〔経済科学論集〕	法文学部法経学科	1
	島根大学法文学部紀要社会文化学科篇〔社会文化論集〕	法文学部社会文化学科	1
	島根大学法文学部紀要言語文化学科篇〔島大言語文化〕	法文学部言語文化学科	2
教育学部	島根大学教育学部紀要(教育科学、人文・社会科学、自然科学)	教育学部	1
	島根大学教育臨床総合研究	教育学部附属教育支援センター	1
	島根大学教育学部心理臨床・教育相談室紀要	教育学部心理臨床・教育相談室	1
	附属小学校研究紀要	附属小学校	1
	附属中学校研究紀要	附属中学校	1
医学部	島根大学医学部紀要, Shimane Journal of Medical Science	医学部	1
	島根大学医学部教育研究業績報告集	医学部	2年に1回
総合理工学部	島根大学総合理工学部紀要	総合理工学部	1
	島根大学地球資源環境学研究所報告	総合理工学部地球資源環境学科	1
生物資源科学部	島根大学生物資源科学部研究報告	生物資源科学部	1
	島根大学生涯学習研究センター研究紀要	生涯学習研究センター	1
総合科学研究支援センター	島根大学総合科学研究支援センター教育研究活動報告	総合科学研究支援センター	1
汽水域研究センター	LAGUNA(汽水域研究)	汽水域研究センター	1
外国語教育センター	島根大学外国語教育センタージャーナル	外国語教育センター	1

●広報紙等

発行部局等名	広報紙名	編集	発行回数(年)
総務課	島根大学概要	広報・広聴委員会	1
	島根大学案内	広報・広聴委員会	1
	島根大学案内パンフレット	広報・広聴委員会	不定期
	広報しまだい	広報・広聴委員会	2
	be ニュースレター	広報・広聴委員会 総務課	2 隔月
国際交流課	SHIMANE UNIVERSITY PROSPECTUS	国際交流課	1
	SHIMANE UNIVERSITY PROSPECTUS (大学院版)		1
法文学部	島根大学法文学部(学部案内)	法文学部	1
	島根大学大学院人文社会科学部(研究科案内)	人文社会科学部	不定期
教育学部	島根大学教育学部(学部案内)	教育学部	1
	1000時間体験学修	教育学部附属教育支援センター	1
	こことそだちの相談室	教育学部心理・発達臨床相談室	1
	園要覧(附属幼稚園)	附属幼稚園	1
	おりづる	附属幼稚園	6
	学校要覧(附属小学校)	附属小学校	1
	附小だより	附属小学校	6
	ちどり	附属小学校	3
	学校要覧(附属中学校)	附属中学校	1
	若樹	附属中学校	3
医学部	島根大学医学部(学部案内)	医学部	1
医学部附属病院	病院ニュース しろうさぎ	附属病院	4
総合理工学部	島根大学総合理工学部(学部案内)	総合理工学部	1
総合理工学研究科	島根大学大学院総合理工学研究科(博士前期課程)(研究科案内)	総合理工学研究科	1
	島根大学大学院総合理工学研究科(博士後期課程)(研究科案内)	総合理工学研究科	1
生物資源科学部	島根大学生物資源科学部(学部案内)	生物資源科学部	1
	生物資源科学部だより	生物資源科学部	2
法務研究科	島根大学法科大学院(山陰法科大学院)パンフレット	法務研究科	不定期
	島根大学大学院法務研究科(山陰法科大学院)地域法律相談センター案内	法務研究科	不定期
附属図書館	島根大学法文学部紀要法経学科・法務研究科篇〔島大法学〕	法文学部法経学科・法務研究科	4
	島根大学附属図書館概要	図書館情報課	隔年
保健管理センター	保健管理センターのしおり	保健管理センター	1
生涯学習教育研究センター	島根大学・生涯学習支援活動ガイドブック	生涯学習教育研究センター	1
	島根大学生涯学習教育研究センター研究紀要	生涯学習教育研究センター	1
	島根大学生涯学習教育研究センター年報	生涯学習教育研究センター	1
	島根大学生涯学習教育研究センターパンフレット	生涯学習教育研究センター	1
総合情報処理センター	島根大学総合情報処理センター(概要)	総合情報処理センター	不定期
	島根大学総合情報処理センター・ニュースレター		1
産学連携センター	島根大学研究シーズ集	産学連携センター	不定期
	島根大学産学連携センター年報	産学連携センター	1
	島根大学産学連携センター・ニュースレター	産学連携センター	1
ミュージアム	島根大学ミュージアム・ニュースレター	ミュージアム	不定期
	島根大学ミュージアム年報	ミュージアム	1
教育開発センター	島根大学教育開発センター年報	教育開発センター	1
男女共同参画推進室	島根大学男女共同参画推進室メールマガジン [さぼっと通信]	男女共同参画推進室	12

区分	土地	建物		備考
		延面積	延面積	
松江キャンパス	m	m	m	
西川津地区	176,931	36,436	117,338	
本部管理棟		642	2,789	
法文学部		1,899	7,629	
教育学部		4,050	16,554	
総合理工学部		6,692	34,538	1、2、3号館
生物資源科学部		4,926	22,337	1、2、3号館
生物資源科学部附属施設		1,257	1,365	水利実験室、農業機械実験室、林産加工場、製材室
教養講義室		1,684	4,708	1、2号館
附属図書館		2,020	6,826	
遺伝子実験施設		515	1,513	
保健管理センター		256	474	
総合情報処理センター		356	682	
ミュージアム		153	153	
汽水域研究センター		249	760	
古代出雲研究施設		64	129	
光物性実験室		52	52	
動物飼育室		50	50	
体育施設		4,462	5,122	第一、第二体育館、トレーニングセンター、プール棟、武道場
学生センター		768	1,393	
学生支援センター		345	656	
学生会館松江		876	2,165	
学生食堂		1,202	1,635	学生食堂、第二学生食堂
課外活動施設		488	1,957	
環境安全施設		180	180	
有機廃液焼却施設		92	92	
中央監視室		69	69	
特高受変電室棟		168	336	
その他		2,921	3,174	倉庫建及び雑屋建
深町地区(学寮)	23,711	2,128	4,481	
大輪地区	54,654	8,328	15,305	
教育学部附属幼稚園		732	896	園舎、物置器具置場、渡廊下
教育学部附属小学校		3,860	7,406	
教育学部附属中学校		3,736	7,003	
その他の地区				
汽水域研究センター中海分室	3,123	376	771	
国際交流会館松江	3,182	434	830	
生物資源科学部附属生物資源教育研究センター				
森林部門	5,708,567	464	686	三瓶演習林、匹見演習林、松江試験地
農業生産科学部門	272,500	5,196	6,025	本庄総合農場、神西砂丘農場、三瓶山麓農場
海洋生物科学部門	4,318	869	1,505	隠岐臨海実験所
第2運動場	4,864	75	75	
朝酌艇庫	1,315	302	369	
研究者交流会館	1,119	339	503	
産学連携センター(松江)	0	589	1,141	地域産業共同研究部門、知的財産創活部門、連携企画推進部門
その他	1,825			京田、曲り田
出雲キャンパス	220,198	31,531	102,966	
本部棟		696	3,206	
講義棟		648	1,930	
実習棟		1,179	4,524	
基礎研究棟		693	5,094	
臨床研究棟		916	4,647	
共同研究棟		598	2,398	
第二研究棟		560	3,714	
第二共同研究棟		290	1,149	
第三共同研究棟		216	420	
R I・動物実験施設		1,082	3,886	
附属図書館(医学部分館)		927	2,182	
附属病院棟		10,617	40,514	
R I・高エネルギー棟		1,043	1,158	
臨床講義棟		704	1,507	
学生会館出雲		665	1,946	
体育館		1,175	1,175	
武道館		432	432	武道場、弓道場
中央機械室		1,779	2,567	
医学部会館		373	586	
M R IーC T装置棟		468	531	
病歴室		150	466	
第三研究棟		395	1,346	
R I研究棟		192	428	
塵芥焼却炉室・発電機室		323	323	
国際交流会館出雲		435	906	
看護学科棟		1,345	6,823	
看護師宿舎		935	4,006	
中水処理機械室		336	336	
R I処理施設		216	259	
特高変電棟		195	390	
産学連携センター(出雲)		767	2,268	地域医学共同部門
その他		1,181	1,849	

◆学部等	
	電話/E-mail
法文学部	0852-32-6113 hor-soumu1@jn.shimane-u.ac.jp
教育学部	0852-32-6253 kyo-soumu@jn.shimane-u.ac.jp
附属教育支援センター	0852-32-9836 aces@edu.shimane-u.ac.jp
附属教師教育研究センター	0852-32-6495
附属FD戦略センター	0852-32-9850
附属幼稚園	0852-29-1120 sora@edu.shimane-u.ac.jp
附属小学校	0852-29-1200 yaegumo@edu.shimane-u.ac.jp
附属中学校	0852-29-1300 shimafu@edu.shimane-u.ac.jp
医学部	0853-20-2015 igak-sokac@jn.shimane-u.ac.jp
医学部附属病院	0853-20-2061 renkei@med.shimane-u.ac.jp
総合理工学部	0852-32-6095 hri-somu2@jn.shimane-u.ac.jp
生物資源科学部	0852-32-6492 kouhou@life.shimane-u.ac.jp
附属生物資源教育研究センター	0852-34-0311 ercbr@life.shimane-u.ac.jp
法務研究科	0852-32-9835 houka-in@jn.shimane-u.ac.jp
◆学内共同教育研究施設等	
	電話/E-mail
産学連携センター	
地域産業共同研究部門	0852-60-2290
知的財産創活部門	0852-60-2290
連携企画推進部門	0852-60-2290 (松江キャンパス) crcenter@ipc.shimane-u.ac.jp
地域医学共同研究部門	0853-20-2912 (出雲キャンパス) cmrc@med.shimane-u.ac.jp
総合科学研究支援センター	
・松江キャンパス	
遺伝子機能解析分野	0852-32-6109 idenshi@life.shimane-u.ac.jp
R I実験施設	0852-32-6109
物質機能分析分野	0852-32-6122 katsube@jn.shimane-u.ac.jp
・出雲キャンパス	
実験動物分野	0853-20-2363
生体情報・R I実験分野	crshp@med.shimane-u.ac.jp
保健管理センター	
・松江キャンパス	0852-32-6568
・出雲キャンパス	0853-20-2098 nohara@med.shimane-u.ac.jp
生涯学習教育研究センター	0852-32-6408 ercll@edu.shimane-u.ac.jp
国際交流センター	0852-32-9756 international@jn.shimane-u.ac.jp

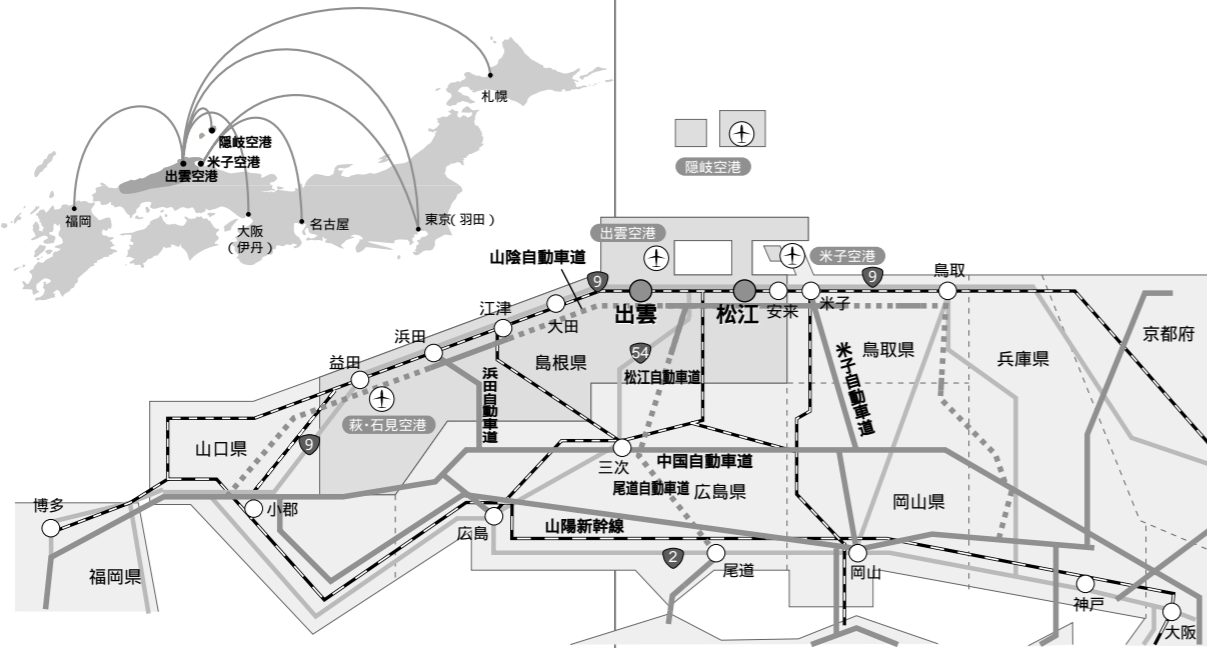
男女共同参画推進室	0852-32-9766
総合情報処理センター	0852-32-6091 center@ipc.shimane-u.ac.jp
汽水域研究センター	0852-32-6099 kisui@soc.shimane-u.ac.jp
外国語教育センター	0852-32-9837 ozono@soc.shimane-u.ac.jp
ミュージアム	0852-32-6496 museum@riko.shimane-u.ac.jp
評価室	0852-32-6605
総合企画室	0852-32-6605
教育開発センター	0852-32-6052
入試センター	0852-32-6073 nyu-nyushi@jn.shimane-u.ac.jp
キャリアセンター	0852-32-6061
プロジェクト研究推進機構	0852-32-6056 kenkyh04@jn.shimane-u.ac.jp
島根大学・寧夏大学国際共同研究所	0852-32-6511 neikakenkyuusyo@yahoo.co.jp
◆事務組織	
	電話/E-mail
総務部	
総務課	0852-32-6014 jsy-bunsyo@jn.shimane-u.ac.jp
人事労務課	0852-32-6018 sji-syokuin@jn.shimane-u.ac.jp
財務部	
財務課	0852-32-6023
経理・調達課	0852-32-6028 zke-keiyaku1@jn.shimane-u.ac.jp
施設企画課	0852-32-6044
施設整備課	zki-soumu@jn.shimane-u.ac.jp
監査室	0852-32-6026 zza-kansa@jn.shimane-u.ac.jp
学術国際部	
研究協力課	0852-32-6056
国際交流課	0852-32-6106 gak-ryugaku@jn.shimane-u.ac.jp
情報企画課	0852-32-6248 jka-jyohou@jn.shimane-u.ac.jp
図書情報課	0852-32-6083 library@lib.shimane-u.ac.jp
教育・学生支援部	
教育・入試企画課	0852-32-6052 gak-kyoumu@jn.shimane-u.ac.jp
学務課	0852-32-7029
学生支援課	0852-32-6063 gga-shien@jn.shimane-u.ac.jp
附属図書館	
本館(松江キャンパス)	0852-32-6083 library@lib.shimane-u.ac.jp
医学分館(出雲キャンパス)	0853-20-2092 m-kanri@lib.shimane-u.ac.jp

アクセス

(2009.5.20現在)

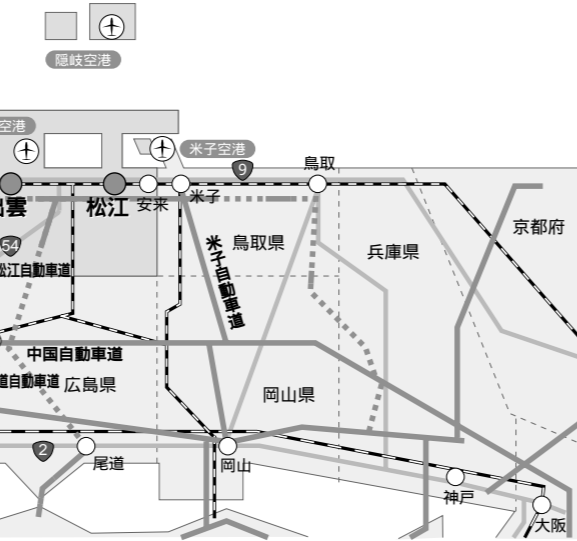
松江キャンパス

空路	
東京(羽田) 出雲	1時間25分
福岡 出雲	1時間10分
大阪(伊丹) 出雲	1時間
札幌 出雲 季節運行	2時間
出雲空港から空港連絡バス松江行(約30分)JR松江駅下車	
東京(羽田) 米子	1時間15分
名古屋 米子	1時間
米子空港から空港連絡バス松江行(約45分)JR松江駅下車	
J R	
東京 岡山 松江	5時間40分
福岡 岡山 松江	4時間30分
大阪 岡山 松江	3時間10分
高速バス	
東京(渋谷) 松江	10時間35分
大阪(梅田) 松江	4時間40分
岡山 松江	3時間
広島 松江	3時間15分
福岡 松江	9時間



出雲キャンパス

空路	
東京(羽田) 出雲	1時間25分
福岡 出雲	1時間10分
大阪(伊丹) 出雲	1時間
札幌 出雲 季節運行	2時間
出雲空港から空港連絡バス出雲市駅行(約25分)JR出雲市駅下車	
J R	
東京 岡山 出雲市	6時間05分
福岡 岡山 出雲市	4時間55分
大阪 岡山 出雲市	3時間35分
高速バス	
東京(渋谷) 出雲	11時間25分
大阪(梅田) 出雲	5時間30分
岡山 出雲	3時間50分
広島 出雲	3時間10分
福岡 出雲	8時間10分



島根大学周辺案内



松江城
山陰地方で唯一の現存する天守閣。天守からは松江市内を一望することができます。



堀川遊覧船
小泉八雲(ラファディオ・ハーン)がこよなく愛した水の都松江のまちを水際からめぐります。



島根県立古代出雲歴史博物館
荒神谷や加茂岩倉から出土した大量の青銅器、古代の出雲大社復元模型など古代出雲の謎に迫る展示が一堂に。



穴道湖
松江市の西にひろがる湖で、夕景の美しさが有名です。海水の少しまった汽水湖で、ヤマトシジミの全国的な主産地でもあります。



出雲大社
伊勢神宮に並ぶ大社。大国主命を祀り縁結びの神としても有名です。本殿は国宝に指定されています。



日御碕
明治36年に建築された石積み灯台で、地上38.8m東洋一の高さを誇り、世界の灯台百選に選ばれています。



出雲ゆうプラザ
中四国で最大級の温泉・温泉水を活用した施設で、ウォータースライダー、プール、サウナなどが楽しめます。



県内その他のエリア



石見銀山
徳川幕府の財政を支えてきた銀山。横穴式坑道の「間歩」が一般公開されています。2007年、世界遺産に登録。



しまね海洋館アークス
中四国地方最大規模を誇る水族館。シロイルカが人気で、約500種1万点もの海の生物が展示されています。



津和野
城下町として700年の歴史を持つ山陰の小京都。白壁を映す堀割に遊ぶ鯉、赤い鳥居の続く太鼓谷稲荷神社などが有名。



国賀海岸
本土から高速船で約1時間の隠岐の島。国賀海岸は隠岐を代表するダイナミックな景勝地です。